

平成23年度 市民等との協働事業一覧表

NO.	部	課	係	事業名	ページ		
1	企画部	秘書広報課	広聴・国際交流担当	青梅マラソン参加外国招待等選手役員受入事業	1		
2		企画調整課	企画調整担当	男女平等情報紙発行事業	3		
3	防災安全部	生活安全課	市民相談係	東京弁護士会多摩支部無料法律相談会	5		
4				成年後見無料相談会	7		
5				法テラスの無料法律相談会	9		
6				不動産無料相談会	11		
7				不動産に関する無料相談会	13		
8				行政書士による無料相談会	15		
9				多重債務者向け無料法律相談会	17		
10				消費生活担当	青梅市市民のくらし展	19	
11			市民部	市民活動推進課	市民活動推進係	地域で頑張る青少年支援事業・団塊世代地域デビュー事業	21
12						協働事業市民推進委員会	23
13	新任職員向け協働研修	25					
14	青梅市民センター	青梅市民センター運営協議会			27		
15	長淵市民センター	長淵市民センター運営協議会			29		
16		長淵市民センターまつり			31		
17	大門市民センター	大門市民センター運営協議会			33		
18		空いるパーク			35		
19		ふるさと地域散歩			37		
20		文化展			39		
21	梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会			41		
22		梅郷市民センター文化祭			43		
23	沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会			45		
24		三田地区総合文化祭			47		
25	小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会			49		
26		小曾木地区文化祭			51		
27	成木市民センター	東京ヒルクライム(自転車競技)			53		
28		成木地区文化祭			55		
29		成木市民センター運営協議会			57		
30	東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会			59		
31		東青梅市民センターコミュニティ文化祭			61		
32	新町市民センター	新町・末広地区市民文化祭			63		
33	河辺市民センター	河辺市民センター文化祭			65		
34		河辺市民センター運営協議会			67		
35	今井市民センター	今井市民センター運営協議会			69		
36		市民ウォーキングと歴史探訪			71		
37		文化展			73		
38		市民課			住民記録係	市民課等窓口における広告掲載封筒の設置	75
39					市民斎場・火葬場パンフレット	77	
40	体育課	スポーツ振興係			第46回青梅マラソン大会	79	

NO.	部	課	係	事業名	ページ			
41	環境経済部	環境政策課	管理係	「青梅の森」市民ボランティア講座	81			
42				自然環境観察講座	83			
43				いかだで遊ぼうin霞川	85			
44				がんばれ！あゆっ子2011	88			
45				喫煙マナーアップキャンペーン	90			
46				環境巡視活動(ポイ捨て等防止条例啓発パトロール)	92			
47				子どもカヤック体験教室	94			
48				多摩川まるごと遊び塾	96			
49				炭焼き体験と水辺の交流会	98			
50				みどりのカーテンコンテスト	100			
51				家庭の省エネ診断員派遣事業	102			
52				ウォームビズ運動	104			
53				エコドライブ運動	106			
54				クールアース・デー(ライトダウンキャンペーン)	108			
55				みんなで打ち水！	110			
56				クールビズ運動	112			
57				ガサガサ水辺の探検隊	114			
58				ふるさとの川、多摩川さかな釣り体験教室	116			
59				おうめ環境フェスタ2011	118			
60				環境ニュースの発行	120			
61				ごみ対策課	ごみ減量推進係	「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声化事業	122	
62						生ごみ堆肥化事業	124	
63						マイバック推進、レジ袋削減キャンペーンにともなうマイバック持参率調査事業	126	
64				商工観光課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	128	
65						梅の公園ガイドボランティア事業	130	
66				農林課	林務係	森林ボランティア育成講座	132	
67				健康福祉部	高齢介護課	包括支援係	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	134
68							認知症サポーター養成研修事業	136
69							介護サービス相談員事務	138
70							高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	140
71	健康課	健康推進係	第42回市民健康の集い		142			
72		母子保健係	これからのパパ・ママへ！ ～楽しく子育てするために～	144				
73	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	青梅市民センター子育て支援事業	146			
74				青梅市親子ふれあい綱引き大会	148			
75				青梅市次世代育成支援地域協議会事業	150			
76				子育てネット事業	152			
77				永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	154			
78				青梅市ファミリー・サポート・センター事業	156			
79				子どもふれあいフェスタ2011	158			
80			青少年担当	子育て支援センター管理運営事業	160			
81	建設部	管理課	庶務係	違法広告物撤去活動	162			
82	都市整備部	都市計画課	景観担当	青梅駅周辺景観まちづくり	164			
83		公園緑地課	管理係	大塚山いこいの森ボランティア	166			
84				緑地管理ボランティア	168			
85	教育部	指導室	指導係	学校教育ボランティア	170			
86		社会教育課	生涯学習推進係	釜の淵新緑祭2011～生涯学習フェスティバル～	172			
87				家庭教育講演会	174			
88				生涯学習事業(聞き取り調査等は「青梅の森ウォーク&ワーク」)	176			
89				生涯学習事業(親子で文化体験)	178			
90		文化課	郷土博物館管理係	文化財解説ボランティア事業	181			
91				続・わがまち青梅講座	183			
92				博物館展示講座	185			
93				伝統技術講座(竹細工)	187			
94				おはなしボランティア	189			
95	中央図書館管理課	業務係	中央図書館整架ボランティア	191				

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅マラソン参加外国招待等選手役員受入事業	報告者	秘書広報課広聴・国際交流担当
------	-----------------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	第46回青梅マラソン大会会場 北京市選手団（6名）参加	平成24年2月17日から2月19日まで
(2) 事業の目的	国際交流の振興のため、青梅マラソン大会に参加する外国招待等選手・役員の受入を、青梅市日本中国友好協会と連携して行なう。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	より多くの外国人に参加してもらい、国際交流の振興を図る	
(4) 実施内容	北京市選手団（6名）について、大会当日の案内、大会終了前後の市民交流等を行なった。	
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	団体に対して支出した経費はなし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	青梅市日本中国友好協会	7人
(3) 協働の理由・きっかけ	各友好協会が市民レベルでの交流を行っており、結びつきも強いため、外国人選手の招待について青梅市との共催事業としている。	
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）	
(5) 役割分担	来青までの連絡のやり取り、宿泊先の確保や通訳等については、友好協会で行なっている。大会前日、当日の誘導や案内、市内観光の引率を市で行う。	

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計 画 段 階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実 施 段 階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事 業 終 了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
市との協働により、友好都市の方々に青梅マラソン大会に参加してもらえ、交流を深めることができた。			
行政側			
普段から交流を行っている友好協会と協働することにより、通訳や宿泊、市民交流をスムーズに行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
自分の役割をよく理解してもらうことが必要と考える。			
行政側			
役割分担の妥当性をよく話し合い、互いに納得した形での協働としていきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	男女平等情報紙発行事業	報告者	企画調整課企画調整担当
------	-------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：毎年 場所：青梅市役所会議室
(2) 事業の目的 市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めるため、男女平等情報紙を発行する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 毎年2回、情報紙「よつばの手紙」を発行する。
(4) 実施内容 男女平等情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行を行う。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 970,559円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅商工会議所、青梅ボランティア・市民活動センター、青梅市市民の暮らし展実行委員会、市民一般公募（2人） 参加人数：各団体1人ずつ
(3) 協働の理由・きっかけ できるだけ市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めてもらうため
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側： 企画立案、情報収集、編集 行政側： 計画立案、情報収集、編集、発行

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 協働したことにより読者である市民からも「より身近に感じられた」と評価を得た。「男女平等参画」への意識が高まった。			
行政側 情報紙の内容に市民の声が反映でき、より市民目線での編集ができた。市民の感覚に触れることにより、市の体質改善や職員の意識改革になると考える。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 編集委員同士の時間がなかなか合わず編集会議の日程調整が毎回難航している。メール等を上手に活用し効率が良くなるようにしたい。			
行政側 取材や、編集会議等の日程調整が、厳しい。効率的な運営を心掛け、編集委員の負担をできるだけ、軽減できるようにしたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	東京弁護士会多摩支部 無料法律相談会	報告者	生活安全課市民相談係
------	-----------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成24年1月28日（土）午後1時～午後4時 場所：市役所2階会議室
(2) 事業の目的 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 無料法律相談会の開催。 開催日ごと、12～14名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容 弁護士による離婚、親族、遺言、クレジット・サラ金問題等の無料法律相談会
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：東京弁護士会多摩支部 参加人数：2名
(3) 協働の理由・きっかけ 東京弁護士会多摩支部からの要望による
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(5) 役割分担 市民側：相談 行政側：市民への周知・広報活動、会場の確保

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	/	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	/	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	/	4
	(4) 協働相手は適切だった	/	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	/	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	/	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	/	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	/	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	/	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	/	4
(11) 協働による効果			
市民側 （弁護士会のため調査不可）			
行政側 市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。相談者は、12人であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側 市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	成年後見無料相談会	報告者	生活安全課市民 相談係
------	-----------	-----	----------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所</p> <p>期間：平成23年9月10日（土）・平成24年1月21日（土）午後1時～午後5時 場所：福祉センター相談室</p>
<p>(2) 事業の目的</p> <p>成年後見制度についての理解を深めるとともに、司法書士の業務内容の周知を図る。</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等）</p> <p>無料相談会の開催。 事前に8名まで先着順で受付を行う。</p>
<p>(4) 実施内容</p> <p>福祉センター相談室において、東京司法書士会青梅支部会員の司法書士による無料相談会</p>
<p>(5) 事業経費（支出した額または予算額）</p> <p style="text-align: center;">0円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態</p> <p>1 政策立案・事業企画等 2 <u>事業共働</u> 3 事業協力 4 事業委託</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数</p> <p>団体名：公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートセンター東京支部 参加人数：2名</p>
<p>(3) 協働の理由・きっかけ</p> <p>公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートセンター東京支部からの要望による</p>
<p>(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。</p> <p>1 <u>計画段階</u> 2 実施段階 3 その他</p> <p>その他の場合具体的に（</p>
<p>(5) 役割分担</p> <p>市民側：相談 行政側：市民への周知・広報活動、会場の確保</p>

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	/	A
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	/	A
	(3) 協働の役割分担は適切だった	/	A
	(4) 協働相手は適切だった	/	A
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	/	A
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	/	A
	(7) 事業実施は円滑になされた	/	A
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	/	A
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	/	A
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	/	A
(11) 協働による効果			
市民側（公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートセンター東京支部のため調査不可）			
行政側 市民が抱えている成年後見制度に関する諸問題の解決が図れた。 相談者は2名であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側 市民への相談の機会をふやすために開催したい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	法テラスの無料法律相談会	報告者	生活安全課市民 相談係
------	--------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年10月27日（木）・12月8日（木）午後5時～午後8時10分 場所：市役所2階会議室
(2) 事業の目的 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 無料法律相談会の開催。 開催日ごと、5名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容 法テラス派遣の弁護士による無料法律相談会
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1 政策立案・事業企画等 2 <u>事業共働</u> 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：日本司法支援センター（法テラス）東京地方事務所多摩支部 参加人数：2名
(3) 協働の理由・きっかけ 法テラスからの要望による
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1 <u>計画段階</u> 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に（
(5) 役割分担 市民側：相談 行政側：市民への周知・広報活動、会場の確保

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	/	A
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	/	A
	(3) 協働の役割分担は適切だった	/	A
	(4) 協働相手は適切だった	/	A
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	/	A
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	/	A
	(7) 事業実施は円滑になされた	/	A
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	/	A
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	/	A
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	/	A
(11) 協働による効果			
市民側 (日本司法支援センター(法テラス)東京地方事務所多摩支部のため調査不可)			
行政側 市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。相談者は、述べ9人であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政側 市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	不動産無料相談会	報告者	生活安全課市民相談係
------	----------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年9月12日(月) 午前10時～午後4時 場所：市役所2階会議室
(2) 事業の目的 不動産取引に伴う消費者の利益保護のため、不動産に関する知識の普及と安全な取引の推進向上を図るため。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容 弁護士、税理士および全日本不動産協会東京都本部多摩西支部の相談員による不動産相談会
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：（社）全日本不動産協会東京都本部多摩西支部 参加人数：5名
(3) 協働の理由・きっかけ （社）全日本不動産協会東京都本部多摩西支部からの要請による
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：相談 行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置・配布

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		A
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		A
	(3) 協働の役割分担は適切だった		A
	(4) 協働相手は適切だった		A
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		A
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		A
	(7) 事業実施は円滑になされた		A
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		A
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		A
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		A
(11) 協働による効果			
市民側 （全日本不動産協会東京都本部多摩西支部のため調査不可）			
行政側	市民が抱えている不動産に関する諸問題の解決が図れた。 なお、相談者は31人であった。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側	安全な不動産取引が推進されるよう継続して開催していく。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	不動産に関する無料相談会	報告者	生活安全課市民相談係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年10月4日（火）午前10時～午後4時 場所：市役所2階会議室
(2) 事業の目的 一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容 不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1 政策立案・事業企画等 2 <u>事業共催</u> 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：東京都不動産鑑定士協会 参加人数：4名
(3) 協働の理由・きっかけ 東京都不動産鑑定士協会の要請による
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1 <u>計画段階</u> 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：相談 行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置・配布

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		A
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		A
	(3) 協働の役割分担は適切だった		A
	(4) 協働相手は適切だった		A
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		A
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		A
	(7) 事業実施は円滑になされた		A
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		A
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		A
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		A
(11) 協働による効果			
市民側	(東京都不動産鑑定士協会の調査不可)		
行政側	不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識や安全な取引の推進が図れた。相談者10名		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側	安全な不動産取引が推進されるよう継続して開催していく。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	行政書士による無料相談会	報告者	生活安全課市民相談係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年11月7日（月）午前10時～午後4時 場所：市役所2階会議室
(2) 事業の目的 一般市民への制度の普及および支援
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 講演会および無料相談会を開催し、行政書士制度の普及・浸透を図る。
(4) 実施内容 行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：東京都行政書士会多摩西部支部 相談人数：13名
(3) 協働の理由・きっかけ 東京都行政書士会多摩西部支部の要請による
1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：相談 行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置・配布

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		A
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		A
	(3) 協働の役割分担は適切だった		A
	(4) 協働相手は適切だった		A
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		A
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		A
	(7) 事業実施は円滑になされた		A
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		A
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		A
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		A
(11) 協働による効果			
市民側	(東京都行政書士会多摩西部支部のため調査不可)		
行政側	遺言・相続に関する相談や成年後見制度の普及を図れた。 相談件数：13件		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側	行政書士制度の普及・浸透を図り、継続的に行政書士を活用した市民への支援をしたい。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	多重債務者向け無料法律相談会	報告者	生活安全課市民相談係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成22年6月19日（土）、9月18日（土）、12月18日（土）、3月19日（日） 午後2時から午後5時 場所：福祉センター 市役所
(2) 事業の目的 消費者金融などからの借り入れが増え、返済などで悩みを抱えている多重債務者を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 無料法律相談会の開催。 開催日ごと、3名または6名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容 福祉センター相談室、市役所会議室において、東京三弁護士会所属の弁護士による多重債務にかかる無料法律相談会
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：東京三弁護士会多摩地区法律相談センター 参加人数：4名
(3) 協働の理由・きっかけ 東京三弁護士会多摩地区法律相談センターからの要請により開催した。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：市民への周知・広報活動、会場の確保 行政側：申し込み受付、相談会の受付、弁護士の確保および派遣

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側								
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		A								
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		A								
	(3) 協働の役割分担は適切だった		A								
	(4) 協働相手は適切だった		A								
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		A								
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		A								
	(7) 事業実施は円滑になされた		A								
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		A								
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		A								
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		A								
(11) 協働による効果											
市民側 （東京三弁護士会多摩地区法律相談センターのため調査不可）											
行政側 多重債務者を対象にした「無料法律相談会」を開催し、法律相談への機会をふやすことにより、多重債務者となって困っている人の救済の一助となった。相談者は、次のとおりであった。											
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 40px;">平成22年 6月19日（土）</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">平成22年 9月18日（土）</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">平成22年12月18日（土）</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">平成23年 3月19日（土）</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> </table>				平成22年 6月19日（土）	2名	平成22年 9月18日（土）	2名	平成22年12月18日（土）	2名	平成23年 3月19日（土）	2名
平成22年 6月19日（土）	2名										
平成22年 9月18日（土）	2名										
平成22年12月18日（土）	2名										
平成23年 3月19日（土）	2名										
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）											
市民側											
行政側 当初の予定者数(1日・3名から6名以内)よりも申込が少なかったが、市が実施している定例の法律相談でも、多重債務にかかる相談は多くあるので、引き続き23年度においても開催予定											

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市市民の暮らし展	報告者	生活安全課消費生活担当
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：実施日 平成23年 11月 5日(土) 6日(日)午前10時から午後4時まで 場所：永山公園グランド（産業観光まつりと併設）
(2) 事業の目的 「今こそ見つめなおそ日々の暮らし！私たちの未来のために！」をテーマに、市民生活の安定とコミュニティの大切さについて青梅市市民の暮らし展を通して啓発に努める。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 産業観光まつりの来場者に対し、展示、催し物等により啓発を行う。 クイズコーナー 2日間 1,086人 地元産ゆで卵の試食 2日間1,100食
(4) 実施内容 展示コーナー：コープとうきょう、パルシステム東京、食を考える会等 試食コーナー：地元産ゆで卵試食、クイズコーナー、絵手紙コーナー、計量ゲーム等
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 委託料 1,068,972円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 コープとうきょう青梅奥多摩コープ会13人、青梅総合高校6人、パルシステム東京青梅・奥多摩委員会15人、多摩高校27人、食を考える会14人
(3) 協働の理由・きっかけ 平成16年度までは消費生活展として実施していたが、婦人会組織がなくなったため、平成17年度から市民の暮らし展として現在の関係団体で実行委員会を組織し開催している。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：啓発パネル等の製作、展示、説明 行政側：会議の設定、会場総括、準備、整理

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
<p>2日間の来場者は延10,600人で、多くの来場者に各団体のテーマおよび消費者、人権、男女平等、市民協働、自治会等の啓発が効率的に図れた。</p>			
行政側			
<p>正規職員1名および再任用職員1名の少人数体制で、多くの来場者に各団体のテーマおよび消費者、人権、男女平等、市民協働、自治会等の啓発が効率的に図れた。特にクイズの景品については、商品として市内産野菜を配布したり、地元産ゆで卵の試食会の実施により地産地消の推進が図られた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
<p>協働を依頼している各種団体の構成員の減少や団体の活動が忙しく、さらに本事業への協力体制が負担になるとの意見もあり、今後規模の縮小などの検討が必要である。</p>			
行政側			
<p>現在3団体に協働のお願いをしていますが、各種団体の構成員も自分の団体の活動が忙しく、さらに本事業への協力について、難しくなっている。本事業の縮小を含めた見直しの検討が必要である。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	地域で頑張る青少年支援事業・ 団塊世代地域デビュー事業	報告者	市民活動推進課市民活動推進 係
------	--------------------------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年6月～平成24年3月 場所：福祉センター、市民センターほか
(2) 事業の目的 4つの事業をとおして、若者および団塊世代の活動を支援する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 団塊世代および青少年の市民活動デビューの支援
(4) 実施内容 遊びサポーター養成講座/遊び寺子屋 おうめ若者カフェ であう あそぶ 子どもの舞 台芸術体験広場 まちづくりフォーラム
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 1,000,102円（多摩島しょ助成金）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：地域で頑張る青少年支援事業・団塊世代地域デビュー事業実行委員会（市民活動団体 から7人、市職員から4人 参加人数：11人（ただし実行委員会のみ）
(3) 協働の理由・きっかけ 協働のモデル事業として事業を実施するために、NPO団体と話し合い実施。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1．計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：事業実施、広報活動（広報おうめ以外） 行政側：事業実施のサポート、広報活動（広報おうめ）

協働事業評価シート（裏）

複数人平均

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3.2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3.6	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3.6	3.5
	(4) 協働相手は適切だった	3.8	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3.8	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3.8	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3.8	3.5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3.2	3.5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3.5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3.5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 周知等がスムーズにできた。事業参加者も行政との距離が近づいたと思う。予算・場所・知恵の幅があった。最終的には人と人との出会いが増えた。</p>			
<p>行政側 行政のみではこれだけの成果は得られなかった。 Facebook等NPOのつながりを活かした参加者の募集やNPOならではの発想を活かした事業実施ができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 事務仕事の分担を市民側でもう少し引受けても良かった。行政にできること、市民にできることが明確になると事業が実施しやすい。ネットワークを広げ、積み重ねていくことや今後の課題を出し合い、目標に向かうことが大切。</p>			
<p>行政側 事前に役割分担をはっきり決めておいた方が事業実施がスムーズ。 費用や人の面でどうやって事業を継続できるか。また、継続していく先に何を望めるか。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	協働事業市民推進委員会	報告者	市民活動推進課市民活動推進係
------	-------------	-----	----------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間：平成23年4月25日～3月16日（計6回） 場所：市役所会議室</p>
<p>(2) 事業の目的 市の協働事業について、市民の意見を求める</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等）</p>
<p>(4) 実施内容 事務局が報告した議題に対し、意見をもらう</p>
<p>(5) 事業経費（支出した額または予算額） 80,000円（謝礼金）</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 1.政策立案・事業企画等に参加</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：NPO法人、自治会連合会、公募、ボランティアセンター 参加人数：9人</p>
<p>(3) 協働の理由・きっかけ 青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針</p>
<p>(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2．実施段階</p>
<p>(5) 役割分担 協働相手：提案や意見の発表 行政側：会議の事務局</p>

協働事業評価シート（裏）

複数人平均

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3.5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3.5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	3.5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3.5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3.5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	2.5	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3.5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3.5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2.5	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民と行政...会議を通じ、お互いが人と人として知り合い、思いを語り合うことにより、それぞれの立場の違いを理解した上で、より良い暮らしのために共に出来ることは何かについて考えることが出来るようになった。 ・視察に行き、共通の体験としての学習機会と出来た事は意味が大きかった 			
<p>行政側</p> <p>協働を進めるにあたり、市民・行政の現状や課題についての率直な話や行政だけでは気づかない点について意見を聞くことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の構成メンバーの「協働」についての認識に疑問を感じる事があった。会議開催時間等を工夫し、多種多様な構成メンバーでの実施が実現できるといいと思う。 ・行政の推進委員会との懇談の機会を増やすことが必要なのではと思う。また、各課の推進委員と市民活動団体との学習交流会が必要だと思う。市民委員会として、勉強を重ね、協働事業まちづくり条例作りなどに取り組みたい。 			
<p>行政側</p> <p>委員会の役割（主に事業の評価）について協議していきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	新任職員向け協働研修	報告者	市民活動推進課市民活動推進係
------	------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年5月6日 場所：市役所会議室
(2) 事業の目的 協働について理解してもらい、ボランティアセンターを知ってもらい
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 協働について理解してもらい、ボランティアセンターを知ってもらい
(4) 実施内容 講義、グループワーク
(5) 事業経費（支出した額または予算額） なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数：2人
(3) 協働の理由・きっかけ 協働の研修が新任研修に組み込まれることになり、ボラセンとの協働を投げかけた
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1.計画段階
(5) 役割分担 ボラセン：ボラセンの事業報告、協働のグループワーク 行政側：協働の講義、消耗品の負担

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	4
	(4) 協働相手は適切だった	2	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	2	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
ボラセン 役割分担も明確で、行政からとしては協働の理念、市民側からはボランティアセンターとしてワークショップを行うことで双方の考え方を伝えることが出来た。			
行政側 グループワークのテーマ決め等について知恵を出し合えた。 ボランティアセンター職員の講習スキルにより、グループワークが盛り上がり、また円滑に実施された。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
ボラセン 現在は行政とボランティアセンター２者で研修を行っているが、協働の相手としてNPO法人等と組んで研修を行うことも必要である。			
行政側 毎年準備期間が短いので、次回はもう少し余裕をもって準備できるようにしたい。 目指せ研修参加者満足度80%！			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換をとおして地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
<p>行政側 市民センターについて率直な意見が得られやすい機会になっている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換をとおして、市民センターについて考えていく機会にしたい。</p>			
<p>行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	長淵市民センター運営協議会	報告者	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：第1回 平成23年7月27日、 第2回 平成24年3月8日 場所：長淵市民センター
(2) 事業の目的 長淵市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する（年2回）
(4) 実施内容 市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 長淵市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：第二支会、二小、二中PTA、友田小PTA、一小PTA、元第二婦人会、体育指導委員、青少年委員、公募委員 参加人数：10人
(3) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：センター運営全般について協議する 行政側：提言を市民センター運営に反映させるよう努める

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換をとおして地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
<p>行政側 市民センターについて率直な意見が得られやすい機会になっている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換をとおして、市民センターについて考えていく機会にしたい。</p>			
<p>行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。</p>			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 利用団体の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。</p>			
<p>行政側 市民センターが身近に感じられる大きな要素と考えられる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 発表の場所等のより良い会場づくり。</p>			
<p>行政側 参加団体、入場者数の増加方法の検討。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	大門市民センター運営協議会	報告者	市民活動推進課 大門市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：第1回大門市民センター運営協議会（平成23年8月2日） 第2回大門市民センター運営協議会（平成24年2月24日） 場所：大門市民センター
(2) 事業の目的 大門市民センターの効果的活用および適正かつ円滑な運営について協議すること。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 地域の団体や市民が主体となった協議機関として、市民センターに置く機能や運営について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。
(4) 実施内容 市民センターの在り方について、市民センター利用状況、住民票等の交付状況、文化祭等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 報賞費 100千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：第3支会1名、保育園園長1名、子供会育成会1名、青少年対策第3支会地区委員会1名、霞老壮大学1名、防災対策委員会1名、利用団体2名、公募委員2名 参加人数：合計10名（男5、女5）
(3) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する。 行政側：提言をセンター運営に活用する。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民センターの効果的な活用、サービス向上について意見交換ができ、地域住民の要望等を得やすくなった。			
行政側 センターが地域に密着し市民の声が行政に反映され、また行政から地域への情報等が円滑に行え、地域の拠点としてのセンターに有効である。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 より自由に意見をいただく。			
行政側 センターを効率よく運営できるよう協議会の意見を尊重し実施していきたい。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 協働により広報等ができたことにより、参加者が多く好評であった。			
行政側 就学前の親子の子育て支援事業ができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 今後も協働により充実が必要			
行政側 市の子ども家庭支援課の支援が必要			

協働事業評価シート（表）

事業名称	ふるさと地域散歩	報告者	市民活動推進課 大門市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成24年2月25日 場所：大門市民センター管内
(2) 事業の目的 近くに住む人同士親睦をはかりながら、身近な地域を知り、新たな発見、人とのつながりをつくることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 多くの市民に参加してもらうことにより、地域住民の親睦を深める。
(4) 実施内容 大門市民センター管内約5kmを散歩しながら、地域の歴史の話を聞く
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 市予算（市民活動事業経費・報償費・講師報償金）から 7,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：霞川くらしの楽校 参加人数：約10人
(3) 協働の理由・きっかけ 地域を活動拠点としていたので、センター事業を実施したい旨相談したところ、目的が合ったため。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：講師との連絡調整、事前協議、当日の引率 行政側：事前協議、広報等での周知、当日の資料準備等の事務

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側		地域で活動している団体なので、地域住民との親睦をはかるとともに、団体の活動内容を知ってもらうことができた。	
行政側		身近な地域の歴史に触れるとともに、地域の人達の交流をはかることができた。	
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側		今後もセンターとの協働で実施していきたい。	
行政側		第3回、4回とコースを変え、霞川くらしの楽校との協働で実施していきたい。	

協働事業評価シート（表）

事業名称	文化展	報告者	市民活動推進課 大門市民センター
------	-----	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年11月26日から11月27日まで 場所：大門市民センター
(2) 事業の目的 市民センター利用団体および地域住民の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場として、親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） サークル団体活動および地域の住民の発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図るとともに市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容 団体メンバーおよび地域の人々の作品の展示や発表を行い、800人の観覧を得た。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 13.5千円（抹茶購入ほか）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：大門市民センター文化展実行委員会 参加人数：100人
(3) 協働の理由・きっかけ 自主グループの活動の活性化を図る。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1.計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：団体代表者が実行委員会に出席し打ち合わせておく。当日は、参加団体メンバーが事務局側と共同で会場設営・撤去等を行う。 行政側：実行委員会を開催して協議を進める。展示等に必要なものを用意しておく。当日の設営・撤去

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側		活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果をみてもらうことができた。	
行政側		施設利用団体の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることができた。。	
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側			

協働事業評価シート（表）

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	報告者	市民活動推進課 梅郷市民センター
-------------	----------------------	------------	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：第1回 平成23年6月28日（火）、 第2回 平成24年3月26日（月） 場所：梅郷市民センター
(2) 事業の目的	梅郷市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、協議会を年2回開催する
(4) 実施内容	市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第四支会、青少年対策梅郷地区委員会、青少年委員、体育指導委員、五小PT4、青梅女性防火防災の会、利用団体2名、公募2名 参加人数：10人（男性7名、女性3名）
(3) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：センター運営全般について協議する 行政側：提言を市民センター運営に反映させるよう努める

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域住民や利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。</p>			
<p>行政側 市民センターについて率直な意見が得られやすい機会になっている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 行政からの情報提供や委員同士の意見交換をとおして、市民センターをよりよくするための意見交換の場として活用したい。</p>			
<p>行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。</p>			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 利用団体や地域住民の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。</p>			
<p>行政側 利用者の表現したい場作りにお互い意見交換ができ、市民側により満足できる場を提供できる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 発表の場所等のより良い会場づくり。</p>			
<p>行政側 参加団体、入場者数の増加方法の検討。</p>			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	市民センターの業務内容を知ることができた。		
行政側	改善すべき点を明らかにできた。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	地域団体の事務については意見や質問をしにくい。		
行政側	市民センターは地域団体の事務も行っており、会議にはその代表者も同席している。 本題は市民センターについてであるが、会長が揃う機会でもある。地域に良い関係が築かれるのであれば団体についての発言も有効ではないかと考える。		

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 発表の場が与えられる。活動の励みになる。出会いがある。交友関係が広まる。仲間意識が高まる。 趣味発見のきっかけになる。			
行政側 市民センターが活用されていることのPR。 多くの情報や意見を得られるよい機会となっている。 住民同士が顔見知りになることで、防災訓練や運動会など多くの人が集まる行事の助けになっ			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 若い人の来場が少ない。			
行政側 若い人の来場を増やす。市民センターを利用する文化団体は高齢者が多い。そのため高齢者中心の内容になっている。若い人が来場する工夫が必要である。共催団体との議題とする。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	センターの運営状態が良く分かった		
行政側	センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	センターの利用がもう少し多くなると良いと思います		
行政側	委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。		

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	B	B
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	A	A
	(3) 協働の役割分担は適切だった	A	A
	(4) 協働相手は適切だった	A	A
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	B	A
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	A	A
	(7) 事業実施は円滑になされた	A	A
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	A	A
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	A	A
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	B	B
(11) 協働による効果			
<p>市民側 利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。</p>			
<p>行政側 行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。 より親しみやすい市民センターへ</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 センター利用団体文化団体が高齢等の理由から減少傾向にある。</p>			
<p>行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。 演奏は6中吹奏楽部で野外（センター駐車場）で演奏のため、天候により会場が変わる問題がある。 これらからも、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	東京ヒルクライム （自転車競技）	報告者	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年9月4日 場所：成木市民センター～常盤林道
(2) 事業の目的 恵まれた自然を活用し環境保全と健康づくりを目指す。また、地域間交流と地域の一体感を深める
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 目標参加人数500名 自転車競技に参加猿選手の安全確保と地域の親睦
(4) 実施内容 ヒルクライム（自転車で山道や坂を上る）競技 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴール地点として目指す
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 市予算なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：第7支会・（社）里仁会・KF2トライアスロンクラブ 競技参加人数：379名 協力者：200名
(3) 協働の理由・きっかけ 地域の一体化を図るため
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：開催準備、交通整理、受付、撤収 行政側：準備品用意、交通整理

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 相互理解、地域の親睦、つながりが深まる			
行政側 行政と市民が一体となり進めることで、地域間交流と地域の一体感が深まった			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 競技の規模拡大への方法として周知方法や、参加者の増加に向けて駐車場の確保などが必要			
行政側 駐車場や交通手段の確保、競技の安全確保			

協働事業評価シート（表）

事業名称	成木地区文化祭	報告者	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間：平成23年11月12日、13日 場所：成木市民センター</p>
<p>(2) 事業の目的 市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動状況を作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティを図る。</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等） 利用団体の活動支援と地域の結びつき</p>
<p>(4) 実施内容 センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売</p>
<p>(5) 事業経費（支出した額または予算額） （款）02総務費 （項）1総務管理費 （目）10市民センター費 （節）08報償費 （事業）03市民活動事業経費 42千円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 1 政策立案・事業企画等 <u>2 事業共催</u> 3 事業協力 4 事業委託</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：第7支会文化祭実行委員会 参加人数：29団体</p>
<p>(3) 協働の理由・きっかけ センターで活動中のサークルの発表の場や、地域住民の作品の展示発表を設ける。</p>
<p>(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1 計画段階 <u>2 実施段階</u> 3 その他 その他の場合具体的に（ ）</p>
<p>(5) 役割分担 市民側：実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け 行政側：文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備等</p>

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	B	B
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	A	A
	(3) 協働の役割分担は適切だった	A	A
	(4) 協働相手は適切だった	A	A
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	B	A
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	A	A
	(7) 事業実施は円滑になされた	A	A
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	A	A
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	A	A
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	B	B
(11) 協働による効果			
<p>市民側 利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。</p>			
<p>行政側 行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。 より親しみやすい市民センターへ</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 文化祭の規模拡大への方法として、周知方法や子供の参加方法を考慮すべき</p>			
<p>行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。 演奏は参加者が増え今の会場では限界となりつつあるので、会場を体育館に変更するなど改善が必要。 地域住民の作品集めには、早い時点での働きかけが必要。これらから、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。</p>			

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	A	B
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	A	A
	(3) 協働の役割分担は適切だった	A	A
	(4) 協働相手は適切だった	A	A
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	A	A
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	A	A
	(7) 事業実施は円滑になされた	A	A
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	A	A
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	A	A
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	A	A
(11) 協働による効果			
市民側	センターの運営状態が良く分かった		
行政側	センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	センターの利用がもう少し多くなると良いと思います		
行政側	委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	報告者	市民活動推進課東青梅市民センター
-------------	-----------------------	------------	------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：第1回東青梅市民センター運営協議会 平成23年8月10日、第2回 平成24年2月22日 場所：東青梅市民センター
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法を検討する
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、協議会を年2回開催する
(4) 実施内容	東青梅市民センターの概要・市民センターの運営について・センター生涯学習事業の実施状況・平成23年度の予算概要
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	（款項目節）02総務費 01総務管理費 10市民センター費 08報償費 85千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第八支会1名、青梅市体育指導委員1名、青少年対策地区委員会第八支会1名、東青梅老壮大学1名、社会教育団体のうちスポーツ団体1名、文化団体1名、青梅市青少年委員1名、NPO法人子ども未来1名、公募委員2名 参加人数：10人
(3) 協働の理由・きっかけ	運営協議会設置要綱
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：センター運営のあり方を検討する 行政側：必要な情報を提供する

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対し、要望等を提供しやすくなった			
行政側 率直な意見を直接聞けるため、センター運営に直接反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからもより一層活用する			
行政側 現状、情報提供を積極的に行い、意見集約のひとつとし、市民センターをさらによくすることを課題としたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	報告者	市民活動推進課東青梅市民センター
------	--------------------	-----	------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年10月8日、9日 場所：東青梅市民センター体育館および和室
(2) 事業の目的 センター利用者などの文化活動の成果を発表する機会を設け、広く地域市民が見学、参加等を通して、地域の文化活動の発展や交流をより一層図っていくこと
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民の文化活動の成果を発表し、市民相互の親睦を図る場とする
(4) 実施内容 東青梅市民センター利用団体および個人等の作品等の展示、演奏、実演。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） （款項目節）02総務費 01総務管理費 10市民センター費 11需用費 6千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 青梅市自治会連合会第八支会1名、利用団体代表者（文科系）17名
(3) 協働の理由・きっかけ 各種団体の発表の場の提供
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：実行委員会を設置し、会場配置図等を作成。各団体で会場設営する。 行政側：展示用具等の提供

協働事業評価シート（裏）

A はい B どちらかといえば「はい」 C どちらかといえば「いいえ」 D いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	B	B
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	A	A
	(3) 協働の役割分担は適切だった	A	A
	(4) 協働相手は適切だった	A	A
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	B	B
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	A	A
	(7) 事業実施は円滑になされた	B	B
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	B	B
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	A	A
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	C	C
(11) 協働による効果			
市民側 自分たちの表現しているコトモノをより効率的な場を作れる。			
行政側 利用者の表現したい場作りにお互い意見交換ができ、市民側により満足できる場を提供できる			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 提供される場のよりよい環境づくり。			
行政側 展示会場、展示道具の老朽化			

協働事業評価シート（表）

事業名称	新町・末広町地区市民文化祭	報告者	市民活動推進課 新町市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年11月12日、13日 場所：新町市民センター会議室および体育館
(2) 事業の目的 新町市民センターを利用している文化団体の活動状況を広く地域住民に紹介するとともに、新町市民センターを地域住民の交流の場として活用することを目的に実施する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民の文化活動の成果を発表し、市民相互の親睦をはかる場とする。
(4) 実施内容 新町市民センターを活動拠点とする文化団体および新町末広町地区に居住する市民等によるパネル・机を使った作品の展示および演舞・演奏並びに模擬店の開店等とする。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 支出額 75,460円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 新町市民センター運営協議会委員：9名 青梅市自治会連合会第九支会新旧役員：13名 新町そ菜組合：数名 青梅交通安全協会第12支部：数名 新町・末広地区民生児童委員：数名 文化団体代表者：19名
(3) 協働の理由・きっかけ 各種団体の発表の場を提供
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：実行委員会を設置し、会場配置図を作成。各種団体で会場設営する。 行政側：実行委員会の事務、連絡、調整 場所、展示用具等の提供

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 各種団体が、表現する場所を効果的に設ける事ができた。</p>			
<p>行政側 事業を通じて、市民と行政との連携による事業のため、事業内容が柔軟に対応できた。 また、利用団体の発表の場として活用できた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 青梅市民文化祭の期間内のため、市民会館ホールでの発表の日程が当文化祭の日に移動となった。 このため、24年度は、演技発表日時の変更を要望。</p>			
<p>行政側 多数の来場者への対応をより充実する。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	河辺市民センター文化祭	報告者	市民活動推進課河辺市民センター
------	-------------	-----	-----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年10月22日（土）、24日（日） 場所：河辺市民センター
(2) 事業の目的 市民センター利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品を展示することにより、一層の河辺地区のコミュニティ醸成を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 利用団体の活動支援と地域コミュニティ醸成
(4) 実施内容 センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会自治会、食育クラブ等の出店。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 支出額：19,808円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1 政策立案・事業企画等 <input checked="" type="radio"/> 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：河辺市民センター文化祭実行委員会 参加人数：32団体
(3) 協働の理由・きっかけ センターで活動中のサークルの発表の場を設けることから、地域住民の作品の展示へと拡大していった。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 <input checked="" type="radio"/> ① 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：実行委員会で意見をいただく。また、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付けまで協働でおこなう。 行政側：文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備等からすべて協働でおこなう。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦に効果が見られる。</p>			
<p>行政側 行政と市民が一体となり推し進めることで参加団体も増え、市民センターがより身近な存在となった。一方、傘下団体が増えるにしたがって、行政側としての関わり方がますます重要になってくると考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 文化祭の規模拡大への方法として、周知方法や子供の参加方法を考慮すべきとの提言がある。</p>			
<p>行政側 来場者アンケートによると、サークル活動への興味が沢山寄せられた。これらから、より多くの方に参加し、来場していただけるよう、今後も努めていきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	河辺市民センター運営協議会	報告者	市民活動推進課河辺市民センター
------	---------------	-----	-----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年6月28日（火）、平成24年2月29日（水） 場所：河辺市民センター
(2) 事業の目的 市民センターの効果的な活用方法を検討すること。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） より効果的な活用を目指すこと。
(4) 実施内容 河辺市民センターの利用状況、住民票等の発行事務、センター文化祭等
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 報賞費 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：第10支会2人、高齢者クラブ連合1人、小学校PT41人、青少年対策地区委員1人、三団地連絡協議会1人、子育て支援NPO団体1人、体育指導委員1人、公募委員2人 参加人数：10人
(3) 協働の理由・きっかけ 要綱設置
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：センターの効果的な活用について提言していただく。 行政側：提言をセンター運営に活用する。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 センターの効果的な活用、サービス向上などについて意見交換を行う			
行政側 より安全で、地域に愛されるセンターに改善するに有効である。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 より自由に意見をいただく。			
行政側 さまざまな立場から、より多くの意見をいただき、センター運営に生かせるよう、今後も努めていく。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	今井市民センター運営協議会	報告者	市民活動推進課 今井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：第1回（平成23年7月7日）、第2回（平成24年2月24日） 場所：今井市民センター
(2) 事業の目的 市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民センターの運営を適正・円滑に行い、かつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容 市民センター各施設の利用状況、平成23年度予算の概要、文化展等について
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 報償費85千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 第11支会1名、保育園園長1名、小学校PT41名、青少年委員1名、青少年対策第11支会地区委員会1名、体育指導委員1名、利用団体2名、公募委員2名 合計10名
(3) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱による。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側：必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センター運営に活用する。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域住民や利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。</p>			
<p>行政側 市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 行政のさらなる情報提供により、利用者の率直な意見や要望の聞き取り。</p>			
<p>行政側 利用者からの意見・要望に対する行政の適切かつ的確な対応。</p>			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域内の史跡や歴史を知るとともにき、参加者相互の親睦も図ることができた。</p>			
<p>行政側 行政と地域との親睦と協力体制を深めることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 より多くの参加者の確保、参加者の交通安全の徹底。</p>			
<p>行政側 一部参加者からは健康増進のための市民ウォーキングの要望もあり、今後は距離・コース等の再検討も必要。</p>			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果をみてもらうことができた。			
行政側 施設利用団体の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 より多くのセンター利用団体による参加・出品・発表			
行政側 出品・発表者へのよりよい環境づくり			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	PR媒体として効果が有った		
行政側	経費削減が図れた。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	封筒の種類を増やす。		
行政側	市のPRの掲載内容を検討する。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	市民斎場・火葬場パンフレット	報告者	市民課住民記録係
------	----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 実施時期：年間 場 所：市民課、斎場、火葬場、市民センター、総合受付案内
(2) 事業の目的 斎場、火葬場の案内パンフレットを、広告費用を利用し作成費の市負担を無くす。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民サービスの向上および経費の削減。3,000部使用
(4) 実施内容 個別に発行していた斎場、火葬場の案内を1つに纏め、斎場・火葬場案内パンフレットとして利用者の方に配布する。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 無

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： ㈱ケイ・アイ・プランニング 参加人数：2人
(3) 協働の理由・きっかけ 平成21年度行革外部監査の結果により、斎場・火葬場の委託化の推進を検討する中での施設経費節減の取組の1つ。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1.計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：パンフレット作成 行政側：窓口設置・配布

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計 画 段 階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実 施 段 階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事 業 終 了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	それぞれ別々のパンフレットを1つに纏めたため、市民の方が見やすいパンフレットになった。		
行政側	経費削減が図れた。（印刷費：約190,000円）		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
	部数、配布場所を検討する。		
行政側	市のPRの掲載内容を検討する。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	第46回青梅マラソン大会	報告者	体育課スポーツ振興係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成24年2月19日（日） 場所：10キロの部：日本たばこ産業青梅営業所東～日向和田（折り返し）～青梅市役所 30キロの部：日本たばこ産業青梅営業所東～川井（折り返し）～青梅市総合体育館
(2) 事業の目的 参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 外国選手を含む参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 参加者（定員20,000人）を集め、安全なマラソン大会を運営する。
(4) 実施内容 ロードレース 10キロの部 30キロの部 ジュニアの部
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 弁当：1,306,800円 ボランティア用帽子：632,100円 （青梅マラソン財団の予算、市の支出はなし）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅市体育協会、青梅市体育指導員協議会、自治会、ボーイスカウト、交通安全協会など 参加人数：2,178人
(3) 協働の理由・きっかけ 参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2．実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃など 行政側：大会の企画、競技運営など

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
コース整理、給水、コース清掃等を受け持ち、市民マラソンの草分けである「青梅マラソン大会」のイメージアップに貢献できた。			
行政側			
主催団体だけでは人手が足りない部分を、協力団体にカバーしていただきスムーズな運営ができた。 また、参加者にもより良い印象を与えることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
大会の詳細について理解が必要（ランナー・観客への案内等）なため、詳細な打合せが必要。			
行政側			
協力団体とより細かい打ち合わせを行う必要がある。 市全体でこの大会を盛り上げるために、より多くの市民の参加を求める必要がある。 より安全な大会運営を行うために、医療機関・大学等とも連携を取り救護体制を整える。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	「青梅の森」 市民ボランティア講座	報告者	環境政策課 管理係
------	----------------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年5月29日、6月11日、10月1日、22日、12月4日、平成24年2月26日、3月18日の計7回 5月、6月の2回は荒天のため中止 場所：永山北部丘陵「青梅の森」
(2) 事業の目的 市民の森として位置づけられた「青梅の森」の周知と、ボランティアの育成
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民の森として位置づけられた「青梅の森」の周知と、ボランティアの育成
(4) 実施内容 まずは周知を図るべく、エリア内の主なポイントを歩いた上、現状と今後の課題等を説明し、質疑応答を行った。また、里山今昔、生物多様性を主題にしたフィールド講座も開催した。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 講師報償費 16,000円（支出額）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：おうめ環境市民会議 参加人数：延べ25人
(3) 協働の理由・きっかけ 平成22年度のおうめ環境市民会議から協働提案を受け、公園緑地課とともに協議開始
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1.計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：事業原案、実踏調査、当日のサポート、講師の選任・依頼等 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：貴重な自然環境を有する「青梅の森」を市と市民が協働して未来に引き継いでいくために、森が持つ自然の力、仕組みを楽しく学びながら一緒に守り育てていく市民の意欲をひきだすことができた。さらに、「青梅の森」の森林保全に向けて作業体験等を行っていくための協力者を募り、市民ボランティア講座のための事前作業を行うことができ、ボランティア団体をつくるための足がかりができつつある。また、参加者へのアンケート調査も講座の振り返りや参加者層を把握する上で参考になった。</p> <p>行政側：専門的技能を求められる森林ボランティアとの住み分けを前提に、広く市民全体を対象とした市民目線の事業コンセプトは今後の展開に期待が持てる。 市民の森とうたった青梅の森を単に利用するのではなく、市民自身が守り育てるといった意識の向上に結び付いた事業として定着させたい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：できるだけ多くの方に参加してもらうために、広報、PRの方法を工夫すること、特に若い人にも参加してもらうための企画の工夫を検討する必要がある。また、作業体験だけでなく、学習・講演会、炭焼き体験、パン・ピザづくり等を組み合わせることも考えられる。そのために行政も含めて、森の手入れ研修・森の楽しみ方研修（見学や講習等）なども必要に応じて行えると視野が広がるのではないかと。さらに「青梅の森」運営協議会結成に向けた準備会への参加をどのように行っていくか、協議していく必要がある。</p> <p>行政側：参加者の平均年齢がやや高い。全年齢層への拡大が課題である。今後、ボランティアの登録制度＝（仮称）「青梅の森」市民ボランティア運営協議会の発足に向けた条件整備と、これにともなう体制づくり、個人情報管理などが課題としてあげられる。また、軽易とはいえ、山での作業に伴うため、安全管理には十分配慮しているが、今後も内容の拡充にとともに、この点にもより一層の注意が必要である。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	自然環境観察講座	報告者	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年9月25日、11月13日、平成24年3月20日の計3回 場所：9月霞川流域、11月御岳山、3月成木川流域
(2) 事業の目的 市内の各所を散策しながら、植物・生物・地質・歴史・文化等に関する説明を受けるとともに、水質調査を行って、青梅の環境を知ってもらい、自然環境保全に関心を持つ市民を増やすこと
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市内の各所を散策しながら、植物・生物・地質・歴史・文化等に関する説明を受けるとともに、水質調査を行って、青梅の環境を知ってもらい、自然環境保全に関心を持つ市民を増やすこと
(4) 実施内容 午前中は現場を歩きながら講師の説明を聞き、水質調査等を行う。午後はグループごとに調査結果をまとめ、他の参加者と相互に説明を行って知識を深める。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 消耗品費、講師報償費 32,064円（支出額）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：おうめ環境市民会議 参加人数：延べ16人
(3) 協働の理由・きっかけ 平成22年度に、おうめ環境市民会議からの協働提案を受け協議開始
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1.計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：事業原案、実地調査、当日のサポート、講師の選任・依頼等 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：1、事業の広報と参加者の募集等が広域に効果的に行えた。2、参加申込みの受付、実施日の人員数の確認と安全性への配慮が正確に行えた。3、事業予算の確保、実施会場の代行予約、講師の選任・依頼等に安心できた。4、事業日当日は常に市職員が出席し、参加者の存非と安全性の確認が確実にサポートできていた。</p> <p>行政側：青梅市のもつ豊かな自然と歴史、文化に加え、水質環境についても実際に自分で採水し、検査するといった多面的な内容の講座を、実際の現場で実施する事業コンセプトは、市民協働として相応しいものである。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：応募者を小学生4年生以上としたが、小学生は1人も参加者がなく、すべて一般成人であった。この事業の目的と内容の質的レベルから、小学生の募集をうたうこと自体無理がある。今後は募集対象者を一般成人とした方が混乱が生じないと思われる。</p> <p>行政側：回を重ねるごとに参加者も増えつつあり、市民の環境に対する意識の高さがうかがえる。フィールドの選定も含め、より魅力的な事業として定着するよう、団体側との事前協議をより一層充実させる。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	いかだで遊ぼうin霞川	報告者	環境政策課 管理係
------	-------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年7月31日（日） 場所：今寺天皇塚水田（今寺～木野下）の中の霞川にかかる天本橋付近の霞川及び管理用道路
(2) 事業の目的 子どもたちに水辺に親んでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 子どもたちに水辺に親んでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容 手製のいかだで川を上ったり下ったり、子どもたち自身でいかだを操る川遊び。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 88,000円（委託契約額）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：霞川くらしの楽校 参加人数：霞川くらしの楽校会員、いかだ作りと操作指導講師ほかボランティア、来賓含め36名
(3) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

(11) 協働による効果

市民側：ふだん水辺には近寄れない霞川に入るイベントとして、直前の手作り旗の掲示により地域を散歩する市民の間では親しみをもって受け入れられるようになった。遊ぶことのできる自然の水辺がすぐそばにあるが、子育て世代に理解してもらうにはまだまだ市との協働開催の形態は重要。ライフジャケットの準備、水洗い、返却などの負担が大きく軽減され、大変ありがたい。講師の先生にも、軽量いかだを考案していただくことができ、次年度への展開に期待が。実施段階ではスローロープの使い方講習も兼ねることができた（その後市で購入）。計画段階からの細かな打ち合わせの必要性は感じたが、メール等で負担なくやり取りをすることができた。参加申し込みが、前年度ほど伸びず、急遽地域の盆踊りに出向いてポスター掲示させてもらったり、ちらしをもって参加を呼びかけたりした。天候不順で東原プールでの呼びかけは出来ず。開催日、天候及び天候による延期で参加者は減。開催の判断も遅れや連絡の不徹底でご迷惑もかけたが、中でも「霞川子どもの水辺協議会」のメンバーである校長先生、支会長には2回も足を運んでいただき、雨の中ボランティアでお手伝いいただき、霞川くらしの楽校の独自事業へのご理解も深めていただけた。

行政側：事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。
実施団体である霞川くらしの楽校は、霞川とその周辺の自然や文化、歴史等を題材に、地元に着目した様々な事業を展開中であり、地域の認知度も高い。
今後も市民の視点に立ちつつ、市民団体ならではの斬新かつ有益な事業提案に期待している。

(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）

市民側：子どもの水辺事業への理解を広げるという意味で、広報だけにたよらず地域にアピールするよい機会ととらえ、とりわけ子育て世代への広報の仕方については、今年度の反省を踏まえて検討していきたい。協議会のメンバーにもアイデアを提供していただくこともしてみたい。また、申し込み方法について休日や時間外（市役所の）でも可能で気軽に申し込めるFAXなどの手段も合わせて検討したい。PRに昔の川ガキのコメントを添えてみたらどうか、スペースの関係もあり検討いただきたい。パドルの貸し借りのために、沢井市民センターまで何度も往復した。当日の役割分担についての打ち合わせは必要と感じた。最後に、事業をやりっぱなしにするよりはるかに、それぞれが協働の評価シートはそ記入することに意味はあると思う。お互い書き込んだものをつき合わせて、次年度の計画に活かせるタイミングでのシート記入が必要では？またつけた点数以上に、誤解や思いの違いがないかその根拠を大切にしたいところだ。

行政側：市民側でも言及しているフルタイムの受付については、電子申請、メール、FAX等も含めて検討したい。問題があるとすれば、定員を超える申請があった時、いかにして申込順を判定するかといった点にある。メール、FAXは特に問題はない。申請もログから時間判定はできるので、それぞれを付け合わせて優先順位を付ければ対応は可能である。ただ、本来、電子申請は定数なしが、最初から抽選前提の事業に向いていると思われるものなので、今後の検討課題としたい。

協働事業評価シート（表）

事業名称	がんばれ！あゆっ子2011	報告者	環境政策課 管理係
-------------	----------------------	------------	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成23年5月8日（日） 場所：釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷および釜の淵市民館
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容	稚鮎の放流とヤマメのつかみどり、ガサガサ水辺の移動水族館館長、山崎充哲氏らの講義を通じ、河川環境保護の重要性も説明した。
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	88,000円（委託契約額）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人奥多摩川友愛会会員 参加人数：25名
(3) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計 画 段 階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実 施 段 階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事 業 終 了 後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側：行政との協働により、単独事業を行なうより参加者からの信頼度が高まり、此方から伝えたい事などが素直に伝わり、事業を行なう効果も倍増のものになった。			
行政側：市民にとって身近な多摩川における現状と、天然アユの遡上に関する課題といった、普段耳にすることのない問題を、子どもたちに説明し、考えるきっかけを作る意義は大きい。また、会の持つマンパワーと豊富な人材は、当日の運営に安定感を与えている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：今後の課題として、さらに内容を充実させて参加者と会員がふれあうことの出来る項目を増やし、さらに親しみの持てる事業にしていきたい。改善事項としては、放流鮎を出来るだけ早く江戸前鮎にするべく努力したい。			
行政側：特に運営について指摘することはないが、釜の淵新緑祭と同時開催であるため、参加者以外の来場者も多い。今後も引き続き視野を広くもって、安全管理に留意することを希望する。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		4
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側： 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側：喫煙者に対して、行政単独ではなく、たばこを販売する側と協働でマナー向上を訴えることの効果は大きい。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側： 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側：特になし			

協働事業評価シート（表）

事業名称	環境巡視活動（ポイ捨て等防止条例啓発パトロール）	報告者	環境政策課 管理係
------	--------------------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年4月～平成24年3月 場所：全市
(2) 事業の目的 条例周知による喫煙者の喫煙マナー向上と環境美化の推進
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 条例周知による喫煙者の喫煙マナー向上と環境美化の推進
(4) 実施内容 地域住民、滞在者に対する条例周知のため、ベスト・腕章等を着用しての巡回パトロールの実施 飼い犬のふんの放置防止呼びかけ看板の設置等
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 環境巡視活動交付金 543,220円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅市自治会連合会 参加人数：
(3) 協働の理由・きっかけ 平成22年1月に、「青梅市ポイ捨ておよび飼い犬のふんの放置の防止ならびに路上喫煙の制限に関する条例」が制定されたことにより、全市的な取り組みが必要とされたことから。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：巡回、啓発活動 行政側：啓発物品の提供と広報活動

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		2
(11) 協働による効果			
市民側： 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側： 地元の自治会による巡回活動は、行政のみでの活動を超える啓発効果がある。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側： 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側： 特になし			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：青梅市共催の看板効果は、市民に安心感を与え、青梅市広報に募集記事を掲載すると、短期間で定員オーバーとなった。また、釜の淵市民館の利用（座学および休憩所）など、募集および施設利用の両面において、協働効果は絶大であった。</p>			
<p>行政側：青梅市では複数の団体と、上流の御岳渓谷から下流の河辺川原までの間で様々な親水事業を展開しているが、中でもカヤックという専門の用具と指導者を要する当該事業は異彩を放っている。青梅市は都内におけるカヌーのメッカと言われながら、一般の市民が普段、中々ふれることのない内容だけに、親水事業全体に多様性を付加している点は大きい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：午前中の座学では、スクリーンを使用して、安全学習を行っているが、実際、川の中央は流れが速く、特に増水時には、流されるリスクが高まるので、青梅市カヌー協会の十分なスタッフ（指導員）を配置し、安全確保については、引き続き最大限行っていきたい。</p>			
<p>行政側：協働事業となる以前、美しい多摩川フォーラム単独で、白丸ダムで実施していた経緯がある。初心者にとっての習熟環境としては、流れのある現在の釜の淵川原より優位にある。カヌーのメッカたる青梅市のアピールに結び付ける流域間交流事業として、奥多摩町や中下流の流域住民、あるいは地域間協定を結ぶ杉並区民の参加も受け入れられるような事業形態の検討なども行っていきたい。</p>			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側：助成金を提供して頂き、プロの講師を雇うことが出来た。参加者を募集するのに青梅市と協働する事により、信頼という保証が出来た。			
行政側：川が流域住民にとって単なる自然の一部ではなく、様々な役割や問題点を抱えていること、生命までも含めたプログラムは、自然環境に加え総合学習的な視点も併せ持つものとして評価できる。子どもたちとともに、保護者も対象として全体を運営している点も同様である。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：講師にまるなげではなく、会員が少しずつ出来るようにする事が重要である。事故のないように安全な取組、組織を構築することが一番重要である。			
行政側：事業の認知度が高まるにつれ、参加希望者も増大の一途にあることは評価されるべき点だが、安全管理面からみれば手放しに喜んでばかりもいられない。学校やPTA関係者のバックアップも得られているが、直接の協働者たる市民団体の地力の底上げにも期待したい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	炭焼き体験と水辺の交流会	報告者	環境政策課 管理係
------	--------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年8月22日（月） 場所：奥多摩フィッシングセンター横、美しい多摩川フォーラム「御岳の森」
(2) 事業の目的 炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容 炭焼き座学 竹割り 竹の窯詰め やまめ・ニジマスつかみどり体験・魚の解剖学習 昼食 着火・中止め～燃焼動向確認 水辺の安全教室 ライフジャケット浮力体験 川遊び体験
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 91,000円（委託契約額）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：美しい多摩川フォーラム、NPO 法人日本エコクラブ、ガサガサ水辺の移動水族館 参加人数：31人
(3) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：事業のプランニング、NPO 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計 画 段 階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実 施 段 階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事 業 終 了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側：青梅市共催の看板効果は、市民に安心感を与え、青梅市広報に募集記事を掲載すると、短期間で定員オーバーとなった。また、ライフジャケットを貸し出していただくなど、協働による効果は絶大であった。			
行政側：平成23年度から協働としてスタートした事業だが、それ以前から団体独自で実施し、熟度を高めてきただけに、内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き釜を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：昼食は、地産地消のお弁当、お茶を提供しているが、発生するゴミの分量も多く、今後は、参加者が各々持ち帰るなどの対応を検討したい。			
行政側：昼食も主催者サイドで用意するなど至れり尽くせりだが、地域の食材を用いるこの方向性を煮詰めていくとともに、参加者自身の手による形など、多面的な可能性の検討も期待したい。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側：節電（省エネ）を訴える事業を展開していたので、協賛して行うことで市民への意識を高める事ができた。			
行政側：平成21年度から実施しているみどりのカーテンモニター事業の新規展開を検討中での申し出であり、非常にタイミングがよかった。また、事業予算がない状態であったため、副賞代、消耗品、会場等の負担軽減が受けられたこと、専門家による審査協力が得られたことに加え、青梅ガス(株)感謝祭会場を利用したオープンな表彰式は、市民への周知力アップにもつながり、応募者以外の市民の声を直接聞いたことも、今後の事業の拡充に向けプラスであった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：市民へのPRとして継続が必要であり、互いの広報誌等での告知により広くPR可能と思われる。			
行政側：事業主催者である行政、協働者ならびに市民いずれからも好評をもって迎えられた事業と認識している。初年度は準備が完全でなかったことから一般家庭のみを対象としたが、今後は企業・団体・教育機関等も対象にするなど、さらに充実した内容になるよう検討・調整したい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	家庭の省エネ診断員派遣事業	報告者	環境政策課 管理係
-------------	----------------------	------------	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成23年5月15日、7月1日、12月1日（希望者募集記事広報掲載号） 場所：省エネ診断を希望する市民の自宅
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容	都が推進し、青梅ガス(株)が協力する家庭における省エネ行動促進事業「省エネ診断員派遣制度」の普及に向けた周知と実践 参考：事業概要 http://www.city.ome.tokyo.jp/kankyo/coolnet_tokyo.html
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	0円（第3回から参加者へ提供しているエコグッズは前年以前に購入した在庫を利用）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅ガス株式会社 参加人数：15人（クールネット東京が認定する青梅ガス株式会社在籍の診断員）
(3) 協働の理由・きっかけ	東日本大震災の影響による節電を推進するにあたり、青梅ガス(株)が都から委嘱を受けて実施している当該事業の普及を図るため、行政側から周知協力を提案、合意した。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	3. その他 その他の場合具体的に（都と青梅ガス(株)で実施中の事業に対し市が周知協力を申出）
(5) 役割分担	市民側：診断員の派遣 行政側：周知活動（広報・ホームページ）および受付

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側：過去、当社だけの周知では思うように申込が無かったが、協働で行うことにより市民からの注目度も高く、一定の効果を上げることができた。			
行政側：東日本大震災の影響による節電行動の普及啓発に関し、実効性の高い既存事業の普及促進に関わられた意味は大きい。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：省エネ診断を利用される方は省エネに対する意識が高く、省エネハンドブックやメディアで取り上げられている省エネ方法はすでに実施済みであるため、診断員のレベルアップが必要である。また、省エネ意識が低い方がこの制度を利用したくなるような取組を実施する必要がある。			
行政側：温暖化防止に向けて個人ができる家庭内の行動を促すきっかけ作りとして、非常に効果的な事業である。しかしながら市民の認知・周知度が低いため、利用率もまた低い。市が協働を申し出たのもこれが理由である。広報の募集記事も青梅ガス(株)の担当者と話し合い、親しみのある内容にするなど工夫しているが、それでも劇的な効果があったとは言い難い。実際の利用者からは好評をいただいているので、今後も引き続き利用率のアップに向けた検討を行っていく。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	ウォームビズ運動	報告者	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年12月1日～平成23年3月31日 場所：青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容 環境連絡会（後述）を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネに取り組んでもらった。 詳細は右のアドレス参照 http://www.city.ome.tokyo.jp/kankyo/warmbiz.html
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 0円（卓上のぼり旗等の啓発物品は在庫を利用）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業（前述のホームページ参照） 参加人数：
(3) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：ウォームビズの実践 行政側：企画と啓発物品（卓上のぼり旗）の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。 そういった点では、ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境連絡会との連携の他は、広報とホームページ等を通じたワンウェイの情報発信のため、周知力のアップとともに、活動成果そのものを啓発に用いるフィードバック手法に工夫が必要と認識している。 今後も啓発物品（卓上のぼり旗）の提供と、それをういた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	エコドライブ運動	報告者	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年12月1日～平成23年3月31日 場所：青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容 環境連絡会（後述）を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネに取り組んでもらった。 詳細は右のアドレス参照 http://www.city.ome.tokyo.jp/kankyo/eco_drive.html
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 0円（車両貼付啓発用ステッカーは在庫を利用）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体（前述のホームページ参照） 参加人数：
(3) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：エコドライブ運動の実践 行政側：企画と啓発物品（ステッカー）の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、エコドライブ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境連絡会との連携の他は、広報とホームページ等を通じたワンウェイの情報発信のため、周知力のアップとともに、活動成果そのものを啓発に用いるフィードバック手法に工夫が必要と認識している。 今後も啓発物品（ステッカー）の提供と、それを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。 そういった点では、ライトダウン運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境連絡会との連携の他は、広報とホームページ等を通じたワンウェイの情報発信のため、周知力のアップとともに、活動成果そのものを啓発に用いるフィードバック手法に工夫が必要と認識している。 今後はポスター、関係団体のホームページ活用等による周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。 そういった点では、打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境連絡会との連携の他は、広報とホームページ等を通じたワンウェイの情報発信のため、周知力のアップとともに、活動成果そのものを啓発に用いるフィードバック手法に工夫が必要と認識している。 今後はポスター、関係団体のホームページ活用等による周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

	調査項目	市民側	行政側
計 画 段 階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実 施 段 階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事 業 終 了 後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。 そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境連絡会との連携の他は、広報とホームページ等を通じたワンウェイの情報発信のため、周知力のアップとともに、活動成果そのものを啓発に用いるフィードバック手法に工夫が必要と認識している。 今後も啓発物品（卓上のぼり旗）の提供と、それをを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：今回の事業は、台風のため中止になってしまった。万全の体制で準備をしておりましたが、残念でした。参加者が大変多いため市と青梅・多摩川水辺のフォーラムと協働にする事により、安全な活動が出来るものと考えられる。</p>			
<p>行政側：上記（8）設定した目標が達成されたの設問に対し、実施できなかったとの理由から市民側は謙虚に1としているが、当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動、その結果、定員を超える申込人数があったことを勘案すれば、実践活動こそ行われなかったものの、それなりの経験やノウハウの蓄積といった効果をあげたといえる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：雨天、台風などにより中止せざる得ない場合について、悪天候でも出来る事業を用意しておくことが必要である。</p>			
<p>行政側：内容も充実し、認知度も高いため、回を重ねるごとに参加者も増加の一途にあるが、これは主催者サイドの安全管理面からみれば難易度が高まっているともいえる状況である。現在の内容を維持しつつ、より安全な運営体制を構築していくことにも目を向ける必要がある。また、市民側でも言及しているとおり、屋外のフィールド活動である以上、天候に左右されることは自明の理なので、荒天時における代替プランを検討しておくことも重要である。</p>			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：今回、焼き魚、トン汁など実際に自然の中で食品を安心して食べていただけたのも行政との協働の効果と思う。何をしても、参加者が安心して参加でき、事業への信頼感を得ることが出来るのが一番の効果と思う。</p> <p>行政側：当該団体との別の協働事業においても同様だが、会の持つマンパワーはこの事業に如何なく発揮されており、指導者に事欠くことはない。これは安全管理においても参加者へのケアも十分ということであり、行政に欠ける点を市民団体がフォローし、実施運営に当たれる点では理想的な形といえる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：今後の課題として、参加者がお互い協力して魚を釣るようにしていきたい。魚を釣って食べる＝人が生きる事、みんなが生きる為には協力が必要、そんなことなどが魚釣りで体感できればと思う。</p> <p>改善事項は、出来るだけ多くの種類の魚を釣ることが出来るようにしたい。</p> <p>行政側：参加費の徴収対象者（家族単位、子どものみ、竿を持参する大人等）の範囲設定が難しい。</p> <p>無原則に竿の持参を認めると、「教室」とうたった趣旨を逸脱した単なるレクリエーションになってしまうことが懸念されるため、使用する竿の数は親子2人で1本を基本としている。</p> <p>参加費そのものは、行政から支出する委託費で不足する部分を補填するものであり、その金額も受益者負担の原則に照らして決して適正な楽なので問題はない。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	おうめ環境フェスタ2011	報告者	環境政策課 管理係
-------------	---------------	------------	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成23年10月15日（土）～16日（日）（15日は準備） 場所：釜の淵市民館
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、市民啓発を行うこと
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、市民啓発を行うこと
(4) 実施内容	環境関連団体、企業、事業者、教育関係者等による展示、ワークショップや、小水力発電にかかわる講演会など
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	消耗品費、講師報償費、印刷製本費、器具等借上料等 合計291,629円（支出額）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：おうめ環境市民会議、おうめ環境フェスタ2011実行委員会、ボランティア等 参加人数：合計67人
(3) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		4
(11) 協働による効果			
市民側：複数団体のため実施できず			
行政側：市内の団体、企業、教育機関等の各主体の環境活動を集め、市民に向けてアピールするこの事業は啓発効果が高く、環境について考える場を提供できるといった点からも意義があると考えている。各主体の活動内容の展示に止まらず、ワーキングショップをはじめとする対話参加型のブースが増加したこと、ややもするとマンネリ化しかねない所を、新たな人材の加入により、新機軸のアイデアを取り入れたことなど、前年から改善が進んだ部分といえる。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：			
行政側：内向きには、参加主体の増加に伴い、実行委員会にはさらなる調整力が求められていること、また、外向きの課題として、限られた施設における会場運営や、事業規模が拡大することで、増加しつつある来場者に対し、案内等の対応にもさらに配慮が必要になっていると感じられた。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	環境ニュースの発行	報告者	環境政策課 管理係
------	-----------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成24年3月発行 場所：市内の新聞を取っている世帯および広報おうめを配布している場所
(2) 事業の目的 市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 平成23年度における市の取り組みおよび協働事業（おうめ環境フェスタ）の紹介を通じ、環境への意識啓発を図る。
(4) 実施内容 おうめ環境フェスタ特集号として、市民会議選出の編集委員を中心に、紙面の構成や内容について協議を行った。市の事業紹介にも紙面を割いた。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 印刷製本費 227,010円（支出額） 広報配布委託料 169,629円（支出額）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：おうめ環境市民会議 参加人数：27人
(3) 協働の理由・きっかけ 平成19年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1.計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：記事の作成、イラスト作成、レイアウト原案 行政側：記事の作成、編集、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計 画 段 階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		3
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		3
実 施 段 階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事 業 終 了 後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側：調査実施できず			
行政側：市民団体と協働で編集を行うことで、市民感覚を取り入れた市民目線の発行物を作成できた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：			
行政側：昨年度と同様に、今回も環境ニュース形式を採用したが、市の発行物である以上、言葉の表現等に対する制約はあったものの、市民感覚を取り入れるといったコンセプトに対して、一定の成果はあったと考えている。協働者たる市民団体は、環境活動に日々携わる、ある意味専門家集団であり、その方面の知識も豊富であるが、ややもすると14万市民の平均的な水準に合わせた紙面作りといったコンセプトが置き去りになりかねないため、この点を常に考える必要がある。また、記事の作成、校正といったやりとりで時間がとられ、発行スケジュールの調整負担が大きい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声化事業	報告者	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	--	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年7月15日～平成24年3月31日 場所：特になし
(2) 事業の目的 視覚障害者等の一人一人が「ごみは、資源である」という認識を持ち、青梅市における正しいごみの分別とリサイクルの方法を周知する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 申込希望者6人あり。
(4) 実施内容 青梅市発行の平成23年4月からの「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および平成23年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」音声版（デイジー図書）の作製。視覚障害者への周知、希望者への配付。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 3,675円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：みすず会 参加人数：15人
(3) 協働の理由・きっかけ みすず会からの提案
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：ハンドブックおよびカレンダーを音声により作製し、マスターとして行政に提供する。 行政側：広報おうめ、青梅市のウェブサイト等で周知し、マスターをダビングし、希望者に配付する。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
市民側 利用者に伺ったところ、今日は何かのごみの日だけだとCDを確認して間違えずに時間迄出すことができ。また、ごみの分別もわかりやすい。			
行政側 今まで、視覚障害者向けには点字版は作成していたが、点字はかなり勉強しないと読むことができなく、視覚障害者の1割程度とのこと。それに対し、音声版のCDは専用の機器があれば簡単に聞くことができ、より多く視覚障害者にごみの分別等啓発が可能となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 1枚のCDを作成するにはPC上、録音・編集・校正等の作業があります。この作業をボランティアで毎年作るとは大変な労力と経費を必要とします。（CD上のラベル印刷のインクジェット代等） 作業料、インクジェット代を市側で負担してほしいです。配付方法のPRも広報、窓口等でたえず呼びかけてほしい。			
行政側 利用者の意見も聞いて改善点があれば直して行く。 さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	生ごみ堆肥化事業	報告者	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 講習会：平成23年5月28日、10月22日（市役所玄関前ロータリー） 勉強会：平成23年6月25日、11月19日（福祉センター）
(2) 事業の目的 家庭から排出される生ごみをダンボールを利用して堆肥化し、ごみの減量化と資源の再生利用を図るとともに循環型社会の形成を促進する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） モニター申し込み 計90人
(4) 実施内容 モニターに対して家庭で簡単にできる生ごみ堆肥化方法を実地に指導し、その後勉強会、電話相談等でフォローしながらごみの減量、資源の再生利用を促進する。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 事業経費 114,840円（予算額）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅・生ごみグルグルネット 参加人数：各6人
(3) 協働の理由・きっかけ 堆肥化を実践しているグループであったことから、協働事業を開始した。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：講習会・勉強会の進行・会場準備。 行政側：募集の実施。堆肥化機材の購入、準備。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計 画 段 階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実 施 段 階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事 業 終 了 後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 市が募集を行うことで応募への安心感がある。			
行政側 モニター参加者のアンケートから各回7～8割以上の方が続けたいと考えており、生ごみの堆肥化は順調に進むと思われる。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 平成18年に始めてから300世帯の参加があった。ごみを減らそうという市民の思いが地道に広がっている。今後はモニターへのフォロー体制の確保や、学校・自治会などへの出前講座などを通じた広がり期待したい。また、市はごみ減量の長期計画の中で例えば堆肥化モデル地区での実践など、展望を示していくことが大事だと思われる。			
行政側 スタッフへの報酬等の検討。ごみ減量に協力するためにモニターになったが、マンション暮らし等で、実際に出来た堆肥を使うところがない場合がある。これらの堆肥の受け入れ先をどうしていくかという課題がある。放射能の影響が第2回の参加者が減ってしまった。募集人員の確保および今後の事業のあり方を検討する。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	マイバッグ推進・レジ袋削減キャンペーンにともなうマイバッグ持参率調査事業	報告者	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	--------------------------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：6月17日および6月27日 場所：マルフジ千ヶ瀬店、西友、マミーマート、いなげや、とうきゅう、オザムバリュー野上店
(2) 事業の目的 買い物袋持参によるレジ袋削減や過剰包装の辞退、リターナブル商品や再生商品の選択の購入など環境に配慮したライフスタイルへの転換とごみ排出削減を市民に周知する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） マイバッグ持参率のアップおよびレジ袋削減の意識向上
(4) 実施内容 店舗において、マイバッグ持参率を調査した。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：おうめ環境市民会議 参加人数：十数人
(3) 協働の理由・きっかけ ごみの排出抑制と資源化を推進する目的意識が合致したことから参加してもらうことになった。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：マイバッグ持参率の調査 行政側：店舗との調整、準備、マイバッグ持参率の調査

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		3
	(3) 協働の役割分担は適切だった		4
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		4
(11) 協働による効果			
市民側 （市民側に調査できず）			
行政側 マイバッグ持参の意識向上。事業協力店舗におけるマイバッグ持参率のアップ。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側 事業協力店舗の拡充。今後の事業の進め方の検討。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	吹上しょうぶ公園 ガイドボランティア事業	報告者	商工観光課観光係
------	-------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年6月1日～30日 場所：吹上しょうぶ公園
(2) 事業の目的 吹上しょうぶ公園内において、花しょうぶまつり期間中に市民がガイドボランティア活動を行うことにより、市民自ずからみどりの大切さを実感し、市民と行政が一体となったよりよいイベントづくりを目指すとともに、来園者の快適な公園利用を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 吹上花しょうぶまつり期間中述べ180名
(4) 実施内容 青梅市「吹上花しょうぶまつり」期間中の来園者にハシヨウブや動植物等のガイドを実施した。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 消耗品費 8,799円 ・ 飲み物代 30,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：吹上しょうぶ公園ガイドボランティア 参加人数：28名 述べ活動人数 133人（6/1～6/30 30日間）
(3) 協働の理由・きっかけ 平成22年度まで公園緑地課において所管し、実施していた吹上花しょうぶまつりおよびガイドボランティア事業について、当年度より商工観光課へ移管した。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：得た知識によりガイドを行っている 行政側：ガイドに必要な情報提供（講習会等実施）・まつり期間中の日程調整

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	2
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
<p>ハナショウブをはじめとする吹上しょうぶ公園周辺の植物等への知識が深まったと共に、来園者に満足いただけるガイドを行うことができた。</p>			
行政側			
<p>来園者に対するサービスの維持および向上が図れた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
<p>行政側との意思疎通、将来への展望等を明確にして行く必要がある。</p>			
行政側			
<p>移管初年度であったが、従前からの課題に加え、相互の意識そご等がありスムーズな運営ができなかった部分がある。互いの目標に関する理解を深める必要がある。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	梅の公園ガイドボランティア事業	報告者	商工観光課観光係
-------------	-----------------	------------	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成24年3月3日～3月31日まで（4月8日まで実施） 場所：青梅市梅の公園
(2) 事業の目的	梅の公園有料期間中にガイドボランティアを実施し、来園者の快適な公園利用を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	期間中の延べボランティア人員180人（3人×2区分（午前・午後）×30日）
(4) 実施内容	梅の公園の有料期間中にガイドボランティアを実施する。
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	講習会実施のための講師報酬 20,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：梅の公園ガイドボランティア 参加人数：29人 述べ活動人数：179人（3/3～3/31 29日間）
(3) 協働の理由・きっかけ	梅の公園有料期間中の利用者サービス向上
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：梅の公園の有料期間中の都合のつく日にボランティアを行う。 行政側：梅の公園ガイドボランティア育成のための講習会等を実施する。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
市民側			
講習会を通じた知識の獲得、また観梅客に対するガイドの中で知見を深めることができた。			
行政側			
梅の公園利用者のサービス向上が図られた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
梅まつり関係者（市・委託業者等・ガイドボランティア）相互がより良い関係性を築いていくことによりさらに良い環境作りを図ることができる。 ガイドボランティアの配置人数について、今まで以上に適正化を図っていく必要がある。			
行政側			
ガイドボランティアの高齢化等による実働人数低下が見られるため、新規募集等について検討が必要。 講習会を外部に依存するだけでなく、内部（既存ガイドボランティア）で実施できる体制づくりの検討が必要。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	森林ボランティア育成講座	報告者	農林課 林務係
-------------	--------------	------------	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成23年5月14日、7月14日、9月10日、11月12日、12月3日、平成24年1月14日、3月10日（計7回） 場所：青梅の森 他
(2) 事業の目的	森林ボランティアの育成と組織化を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	年間6回の講座を開催。 参加者30人（30人×講座6回＝180人）
(4) 実施内容	2年を1期とした講座の2年目の実践編として、下刈り・間伐・枝打ち等を実施した。
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	¥755,000.-

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人 青梅林業研究グループ 参加人数：各回10名程度
(3) 協働の理由・きっかけ	平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図るため講座を開催した。指導者として森林施業の知識、技術を持ち、経験豊富なNPO法人青梅林業研究グループに委託して実施する。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：講座内容の決定、資材の準備、実技指導 等 行政側：講座参加者への連絡、会場の確保、実施内容の調整 等

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側 里山を元気にすることが生活環境の改善に結びつくことが体験を通じ実感できる事業である。近隣の市町村に比べ、民有林を管理保全してきた歴史が浅い青梅市として今後の対応が期待される。			
行政側 森林ボランティアを育成するための事業の委託先として、市内の森林施業に熟練している指導者の集団である青梅林業研究グループはふさわしく、協働（委託）による効果は上がっている。また、平成22年度から交流協定を結んでいる杉並区民を受け入れて、杉並区と共同で講座を開催している。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 卒業生のグループ化として森守会が誕生しているが、会員年齢との関係で活動拡大が課題として残る。りんけんになり替わる組織として成長を期待したいが困難な状況にある。また、公益性の高い森林を活動の場としての事業、ましてや青梅の森の立地条件を生かした事業展開が期待され、23区内の行政、企業にはうってつけの活動拠点であり、諸媒体を通じ情報を発信すべきであり、ダイナミックな取り組みが期待できる。			
行政側 特に大きな課題はないが、講座参加者が講座を終了した後に、継続して活動してもらうための受け皿である市民ボランティア団体『森守会』へ、いかに多くの終了者を加入していただけるかが課題である。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	報告者	高齢介護課包括支援係
------	--------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年9月から12月 3か月間 場所：庁内の自治会館および運動広場等
(2) 事業の目的 地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証するための健康づくりモデル事業を実施することにより、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行うとともに地域における介護予防事業を普及推進する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 上記（2）事業の目的に同じ
(4) 実施内容 1．ウォーキング等介護予防の効果があると認められる事業の実施 2．事業の実施に伴う予防効果の検証 3．検証結果の広報活動等
(5) 事業経費（団体に対し支出した額または予算額）および支出科目 平成23年度支出済額 371,044円委託料（その他委託料）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：高齢者クラブ（3か所） 参加人数：延べ135人
(3) 協働の理由・きっかけ 平成18年4月介護保険法が改正され、介護予防の推進を図るため
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2．実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：会員への周知、会場準備 行政側：ウォーキング教室の実施。ウォーキング前、後の運動機能測定（握力、開眼片足立時間、10m歩行速度）

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証される。また、自発的な介護予防に資する組織が育成され、地域における介護予防事業が普及促進される。		
行政側	健康づくりの意識、体力、高齢者クラブの様子など地域の情報が得られ、事業の企画、実施の参考となる。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	高齢者クラブの加入者があまり増えない。特に前期高齢者が少ない。事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続して行いたい。		
行政側	介護予防が必要な前期高齢者についても対象にしたい。事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続するように働きかけを行いたい。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	報告者	高齢介護課包括支援係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年4月から3月 場所：利用を希望する団体・グループ等が確保した会場
(2) 事業の目的 認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 上記（2）事業の目的に同じ
(4) 実施内容 1．認知症の基礎知識(認知)症とは何か、認知症の症状とは）、早期診断・治療の重要性、権利擁護等 2．認知症の人への対応、家族への支援、サポーターとしてできること等
(5) 事業経費（団体に対し支出した額または予算額）および支出科目 平成23年度支出済額 20,890円需用費（消耗品費）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 市民の地域住民、職域、学校、広域の団体・企業等の従事者等
(3) 協働の理由・きっかけ 平成18年7月厚生労働省老健局長通知により、本事業の推進を図るため。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2．実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 利用を希望する団体・グループ等は、申込および会場の確保や準備、機材の用意等を行う。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側：認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりが推進される。			
行政側：今後も認知症サポーターが増えるよう呼びかけていきたい。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：特になし			
行政側：今後も認知症サポーターが増えるよう呼びかけていきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	介護サービス相談員事務	報告者	高齢介護課包括支援係
------	-------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年4月から3月 原則として毎週水曜日実施 場所：介護保険施設等または居宅
(2) 事業の目的 介護保険施設等または居宅を訪問し、介護サービスを利用する者等の話を聞き、相談に応じる等の活動を行う相談員を派遣することにより、サービスの実態を把握し、利用者と事業者の橋渡しをしながら、問題の改善や介護サービスの質的向上を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 上記（2）事業の目的に同じ
(4) 実施内容 1．介護保険の利用者および家族等からの相談等に応じるため介護保険施設等および居宅を訪問すること。 2．サービス提供事業者等への働き掛けをすること等
(5) 事業経費（団体に対し支出した額または予算額）および支出科目 平成23年度支出済額 1,251,928円報酬（非常勤職員報酬）16,360円旅費（費用弁償）122,000円負担金、補助および交付金（負担金）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 市民一般公募5人
(3) 協働の理由・きっかけ 平成12年4月介護保険法が施行され、介護サービス適正実施指導事業の実施を図るため。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2．実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 介護サービス相談員は、介護保険施設等または居宅を訪問し、介護保険に利用者および家族等からの相談等に応じる。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側：介護保険施設等においては、サービス利用者の不安、不満、疑問等にきめ細かく対応することで、苦情に至る事態を未然に防止するための働きかけをサービス提供事業者へ行うことができる。また、サービス利用者とサービス提供事業者へ橋渡しを行っていきることにより、サービスの改善が図られ、サービスの質の向上・適正化に貢献することができる。</p> <p>居宅では、サービス利用者の孤立や不安の解消を図ったり、適切な情報提供を行うことでサービスの適正な利用につなげることができる等</p>			
<p>行政側：介護サービス相談員について周知するとともに、居宅等要望があった場合、対応できるようにしていきたい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：介護相談員の研修は、年1回現任研修がある。それ以外に市職員による、介護保険全般、介護保険料、関連機関（後期高齢者医療制度、国民健康保険全般、国民健康保険税、生活保護法等）についても行っていきたい。</p>			
<p>行政側：介護サービス相談員について、周知していきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	報告者	高齢介護課包括支援係
------	--------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成18年8月から年2回開催 場所：青梅市役所会議室、青梅市福祉センター集会室
(2) 事業の目的 養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） あり。高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談ができ、今まで課題が実現化する基盤ができた。
(4) 実施内容 1 高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2 高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3 養護者に対する支援に関すること。4 高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 委員報償金 23,000円（予算額35,000円）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：社会福祉協議会の代表1人、民生児童委員会合同協議会の代表2人、東京弁護士会の代表1人、ケアマネジャー連絡会の代表1人、人権擁護委員の代表1人 参加人数：6人
(3) 協働の理由・きっかけ 平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターへ対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側：体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側：ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。			
行政側 委員の専門的な見地から意見、助言をしてもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。ケア会議の開催時出席 緊急一時保護、やむを得ない措置による入所、市長申立てによる成年後見制度をおこなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。			
行政側：虐待の早期発見、虐待通報の徹底化により、早期に関係機関が介入する体制を強化でき、被虐待者、養護者の支援に早く対応する。 高齢者虐待マニュアルの作成。 緊急一時保護先の確保。 高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	第42回市民健康の集い	報告者	健康課 健康推進係
------	-------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年5月29日（日） 場所：青梅市役所2階会議室等
(2) 事業の目的 健康に関する正しい知識や情報の提供など、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 家族ぐるみの健康づくりをテーマに健康・歯科・薬・ペットなどの相談、ヘルスチェック、生活習慣病の予防、栄養、転倒予防教室、応急救護、親子ふれあいコーナー等と医師会、歯科医師会、薬剤師会による講演会を実施する。
(4) 実施内容 市民健康の集いの運営（相談、PR、測定など）
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 有 医師等報償金 323,300円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 青梅市三師会 15人 東京都獣医師会多摩西支部 2人 薬物乱用防止推進青梅・奥多摩 4人 青梅市接骨師会 11人
(3) 協働の理由・きっかけ 昭和45年から実施しているため不明
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：医師等の立場から専門知識を提供する。 行政側：健康に関する情報を提供し普及啓発を図る。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 来場者へ専門的な立場から情報提供ができ、さらに、健康意識の高まりを感じることができた。			
行政側 医師など専門的知識を有する方と協働することにより、来場者へより多くの情報を提供できた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 来場者の健康状態を把握し、分析していきたい。			
行政側 より多くの来場者を確保するために、毎年度、事業内容の見直しを図る。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	これからのパパ・ママへ！ ～楽しく子育てするために～	報告者	健康課 母子保健係
------	-------------------------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：H24.1.15(日)・22(日)・29(日) （協定の期間：H23.10.18～H24.3.31） 場所：今井市民センター
(2) 事業の目的	育児への不安解消 子育ての仲間づくり 孤立を防ぐつながりづくり
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	これから親になる人の不安解消 出産後の子育て環境の充実につなげる。
(4) 実施内容	15日(日)：自己紹介・子ども時代の振り返り・子育ての不安の話し合い 22日(日)：絵本やおもちゃに触れ、遊び方を知る。 29日(日)：先輩パパママの話、乳幼児との触れ合い
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：特定非営利法人青梅こども未来 参加人数：5人×3日間＝15人（延人数）
(3) 協働の理由・きっかけ	市民団体からの協力（後援）依頼
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：事業の周知・実施事業全般 行政側：会場確保（市民センター）、他事業内での本事業紹介・チラシ設置

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	2	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 ・会場（今井市民センター）を優先的に予約、手続きしてもらった。 ・広報おうめ、ニュースレター、チラシ等に「協力 青梅市健康福祉部健康課（健康センター）と記載することによって、講座内容に市民からの信頼を得られた。 ・健康センター主催の「両親学級」の参加者に講座の案内を説明付で配布できた。			
行政側 ・会場の確保について、優先して確保できたので、市民側が安心して予定を立てられた効果はあったと感じる。 ・民間団体の事業について、一部把握することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 ・対象者への周知の徹底と産後支援の充実に向け、市内唯一の産科のある青梅市立総合病院との連携を図るため、行政間の関係の強化が必要だと思う。 ・出産前から産後3～6か月の母親を支援するための関連行政間・市民活動団体等との協働事業を充実させていく必要がある。 ・青梅こども未来をはじめ、子育て・子育て応援関連の団体の各種パンフレット・行事のチラシ、ポスター等を総合病院をはじめ、市内の医療機関等に置けるようにしてほしい。			
行政側 ・事業の紹介、宣伝方法をもう少し考える必要があると感じた。 ・初めてのことであったので、会場確保以外については、十分に事務等を進められなかった部分があった。 ・他団体で同様の事業協力依頼があった場合、市がどこまで動けるかという不安がある。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市民センター子育て支援事業	報告者	子ども家庭支援課支援係
------	-----------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年10月1日、平成24年3月31日 場所：青梅市民センター内 キッズルーム
(2) 事業の目的 ・ 乳幼児親子のゆったりのおんぶした遊びと情報交換の居場所作り ・ 学童（異年齢）遊びを通しての交流と居場所づくり
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 延べ利用者数 713人
(4) 実施内容 NPO法人子ども未来、NPO法人青梅西多摩子ども劇場、NPO法人青梅ファミリーサポートはーとの3団体との協働で子どもたちの遊びの場、親子の憩いと情報交換のための居場所の提供
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 各団体の所有する遊具、ゲームなどを持ち寄り事業を実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：NPO法人子ども未来、NPO法人青梅西多摩子ども劇場、NPO法人青梅ファミリーサポートはーと 参加人数：7名
(3) 協働の理由・きっかけ それぞれの団体の持つ特色を生かしての子育て支援事業を展開する。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1.計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：乳幼児親子・児童の遊びと憩いの場・情報交換等の居場所づくり 行政側：実施会場の提供・事業の広報・関係機関との調整

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	1	2
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 ・ 開館時間前から来館してスタッフを待っている ・ 乳児と触れ合ったり、異年齢の子どもとのかかわりも喜んでいた			
行政側 NPO団体の持つ得意分野を生かした子育て支援事業を行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 事業展開にともなう、各団体の必要用具をその都度運び込むことなく、きちんと置き場所の確保をしていただきたい			
行政側 事業の開催日数や、事業に際して必要な物品類の保管などについて今後協議する必要がある。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側：行政側が実行委員会事務局を担うことにより予算管理、広報おうめ等による出場チーム募集受付業務、実行委員会・出場チーム対戦組合せ抽選会開催、大会当日用備品類・各種資材の調達が円滑に行われた。			
行政側：大会前日の会場設営および当日の千数百人におよぶ出場選手・応援者等大会参加者の整理・誘導については、担当主管部署および市民活動推進課、体育課等の関連部署の人員のみでは対応不可能であるばかりでなく、大会審判や綱引き競技専用レーンマット敷設のノウハウなど市民側の協力が不可欠である。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：特になし			
行政側：特になし			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市次世代育成支援地域協議会事業	報告者	子ども家庭支援課支援係
-------------	-------------------	------------	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成23年8月8日、平成24年2月20日 場所：市役所会議室
(2) 事業の目的	青梅市次世代育成支援地域行動計画進行管理のための協議
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	青梅市次世代育成支援地域協議会開催2回
(4) 実施内容	平成23年度における行動計画実施状況の検討
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	220,500円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市次世代育成支援地域協議会 参加人数：延べ19名
(3) 協働の理由・きっかけ	関連団体代表、有識者や市民が、協議会の委員として参加し、次世代育成支援地域行動計画の進捗よく状況を検証するため協働する。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：関連団体代表や有識者が、協議会の委員として参加し、協議・提言を行う。 行政側：協議会事務局となり、提言を参考として施策を実施する。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 次世代育成支援地域行動計画の進捗状況について、市民の目線で検討、評価を行うことができた。			
行政側 行動計画の実施状況の検証や検討課題等について市民とともに検討、協議することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 次世代育成支援地域協議会のあとの当事者参画の仕組みとして設置義務付けが想定されている「地方版子ども・子育て会議」（仮称）について、構成員や審議内容などを、本協議会において市民参加のもとに検討していくことが今後の課題となる。			
行政側 行動計画の実施状況の検証をもとに、今後の事業を進める必要がある。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	子育てネット事業	報告者	子ども家庭支援課支援係
------	----------	-----	-------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間： 年間を通じて、子育て関連ホームページの作成及び運営を行う。 場所：事務局 東青梅1-27-5エルモンテ202 10/ より 勝沼3-78 KTホール2F</p>
<p>(2) 事業の目的 市の子育て支援サービスや製作および市内の子育て関連NPO法人や子育てサークルなどの様々な子育て関連情報を一目でわかりやすく伝えるため、子育て関連ホームページを開設し、児童および子育て家庭の福祉向上を図る。</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等） 年間アクセス数 422,425件</p>
<p>(4) 実施内容 子育てに特化したホームページの開設および運営</p>
<p>(5) 事業経費（支出した額または予算額） 1,768,750円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 4.事業委託</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩 参加人数： 事務局スタッフ約10名</p>
<p>(3) 協働の理由・きっかけ 行政による一方的な情報だけでなく、市民の目線を生かした行政情報以外の様々な情報を楽しく伝えるため、NPO法人へ委託を行うこととした。</p>
<p>(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に（ ）</p>
<p>(5) 役割分担 市民側（NPO団体）：ホームページの開設・運営、情報収集、関連団体と連携等を実施する。 行政側：ホームページの基本管理、市の情報提供等</p>

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民目線・子育て中の親子の立場に寄り添ったホームページとなっている。</p>			
<p>行政側 NPO法人への委託により、市からの一歩的な情報提供だけでなく、市民が求めている様々な情報を楽しく伝えることができた。また、経費面においても効果があった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 内容充実に向けての話合いをさらに進める。</p>			
<p>行政側 ホームページの充実、特集記事等の充実や掲示板などによる利用者の参加増加、ホームページ及び事務局を基点とした市内子育て関連団体の連携など</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	報告者	子ども家庭支援課支援係
-------------	---------------------------	------------	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週火曜日～土曜日（年末年始を除く） 場所： 永山ふれあいセンター内
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	利用者数 年間3,154人
(4) 実施内容	青梅市永山ふれあいセンター「キッズぱーく」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊びの場の提供を行う。
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	2,815,800円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定保育利活動法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： ローターションにより会館中常時2名配置
(3) 協働の理由・きっかけ	永山ふれあいセンターを子育てスペースとして場所の提供を行っていたが、スタッフを配置してひろば事業として実施することとなり、市内NPO法人はあとへの事業委託を行うこととした。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：（NPO団体）「キッズぱーく」の管理・運営を実施する 行政側：基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 憩いの場として、乳幼児母子の来館も、日々に増してきております。市内の中に収容できない日々もある程です。スタッフと来館の母子のコミュニケーションも充実し、親子満足して帰宅されている様子がキッズパークの広場の必要性を感じております。</p>			
<p>行政側 市内NPO法人の育成や市民との協働が図られ、様々な事業を実施することにより、利用者への利便が図れるとともに、経費的効果も上がった</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 従来、お願いしておりましたボード3ヶ所の内2ヶ所は、設置していただきました。残る1ヶ所もできるだけ早く設置していただきたい。 冷暖房器具も年数もたっているせいか必要児に稼働しないことも多々ありましたので、できたら取り替えていただきたい。</p>			
<p>行政側 利用者が減少していることから、利用者増加に向けた周知の検討が必要と考えられる。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	報告者	子ども家庭支援課支援係
-------------	----------------------	------------	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	<p>期間： 通年（事務局は平日開設） 場所： 利用会員の要望する場所（事務局は、東青梅センタービル3階）</p>
(2) 事業の目的	<p>子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。</p>
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	<p>会員数 631人</p>
(4) 実施内容	<p>子育ての支援を求める者（利用会員）と子育てを支援する（提供会員）による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネイトを行う。</p>
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	<p>6,558,535円</p>

2 協働の内容

(1) 協働の形態	<p>4.事業委託</p>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	<p>団体名： 特定保営利活動法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 2名（事務局に係る人数）</p>
(3) 協働の理由・きっかけ	<p>子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため。なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員（協働）事業である。</p>
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<p>2. 実施段階 その他の場合具体的に（ ）</p>
(5) 役割分担	<p>市民側：（会員）相互援助活動・有償ボランティア活動としての事業実施（NPO法人）事務局として の運営管理、会員間のコーディネイト 行政側：体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。</p>

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 複雑な事情をかかえた支援依頼も多く、活動会員の紹介も困難のことも多くなる。会員になるための養成講座もサポートセンターの場所など、内容が広報等に記載され、以前より、サポートセンターが周知されてきたと思われます。</p>			
<p>行政側 事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 協働による効果についても記載のように、複雑な事情家庭の支援も多く、事務処理にも苦慮も多くなり、2人態勢から、2.5人または3人態勢を認めてもらいたい。</p>			
<p>行政側 会員の拡大、制度・利用者増加に向けた方法の検討が必要である。</p>			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 広く市民が参加できるように施設の利用や広報が効果的できた。</p>			
<p>行政側 子育て支援事業（親の交流や親子のふれあい、情報交換、レクリエーション、PRなど）を推進することができた。市民の豊かで自由な発想による企画立案ができた。市民のマンパワーを活用することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 事業内容プログラムに関して、意味や価値について深めて作って行きたい。</p>			
<p>行政側 子どもたちや子育て親子の交流だけでなく、異世代間の交流や地域の伝統の伝承も考慮した事業実施の検討が必要と考える。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	子育て支援センター管理運営事業	報告者	子ども家庭支援課支援係
------	-----------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：通年開館（毎月第2月曜日および年末年始は休館） 場所：青梅市子育て支援センター
(2) 事業の目的 子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 利用者数 年間33,050人
(4) 実施内容 青梅市子育て支援センターにおいて、指定管理者制度により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊びの場の提供を行った。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 12,582,179円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：特定非営利活動法人青梅こども未来 参加人数：ローテーションにより開館中常時3名以上を配置
(3) 協働の理由・きっかけ 平成18年度から指定管理者制度を導入し、運営することとした。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：指定管理者として子育て支援センターの管理・運営を実施する。 行政側：基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

来館者が行政と指定管理者を信頼して利用している。
 利用者の声が担当管轄部署に速やかに届けられることができる。
 子育て経験豊富なスタッフが先輩ママとして来館者(保護者)とかかわるので、来館者が気軽に声をかけて子育て相談する事ができ、軽度の子育ての悩みなどは来館者が話すことで軽減できている。抱える問題が大きいとスタッフが察したときは相談員にすぐに繋げるので、専門家による母親の支援が素早く出来る。

行政側

管理日誌・業務日誌の他に、軽易な相談以外のスタッフが気付いたことについては、相談記録の報告をしてもらうことにより、相談員に繋げることができる。

(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）

市民側

元来、乳幼児親子対応として設計されている施設に小・中学生の利用を認めているので、乳幼児と小・中学生が安心して安全に遊ぶ事ができる館内では無い現状なので、学校、幼稚園の長期休暇中は、安全管理を保つためにも子育て支援スタッフは4人および5人体制が必要である。
 受付業務、事務業務、フロアーでの見守り、相談事業等の仕事量を考えると、現在のスタッフ数では人手が足りない状態である。利用者に目の行き届いた対応するために、通常時も4人体制は必要である。
 インフルエンザ等の予防のための小中学生のための手洗い用の水道が必要である。また、外で手洗いできる洗い場の設置が望まれる。
 環境整備、安全整備等を考えると月1回の休館日では難しい。もう一日休館日の設定が望ま

行政側

乳幼児と小・中学生の交わりと、混雑時における住み分けについて、指定管理者側と協議の必要がある。

協働事業評価シート（表）

事業名称	違法広告物撤去活動	報告者	管理課 庶務係
------	-----------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：24年3月31日まで 場所：市内全域
(2) 事業の目的	安全な歩行空間や、まちの美観風致を阻害している道路上に設置された違法広告物（はり紙、はり札、立看板、広告旗）を市民と協働して撤去活動を行う。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	なし
(4) 実施内容	青梅市に活動員登録した市民団体が、違法看板設置の通報や、発見により看板撤去を行う。
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：河辺町5丁目ほか6団体 参加人数：50人
(3) 協働の理由・きっかけ	平成15年度から24年度の「青梅市総合長期計画基本構想」において、市の将来像とする「豊かな自然、快適な暮らし、ふれあいの街(まち)青梅」の実現に向けたまちづくりの基本方向の一つに、「快適で安全な生活環境の街」を掲げ、都市における街並み景観の保全・創出施策として、市民・行政の協働により、市内に設置されている違法な看板を撤去し、良好な都市景観を築いていくための「捨て看板クリーン作戦事業」を展開していくものとし、平成16年4月の「青梅市捨て看板クリーン作戦実施要綱」の設置しました。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2．実施段階
	その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：簡易看板撤去 行政側：簡易看板撤去および指導・撤去看板の保管と廃棄

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	2
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	2
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	2	2
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	2
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
(11) 協働による効果			
<p>市民側 昨年は違法看板が4年ぶりに増加した。活動実績は減少している。</p>			
<p>行政側 近年は違法看板が減少効果が見られたが、昨年度に増加減少が生じた。 風俗看板が減少兆しに対し、不動産看板の増加が原因である。 昨年実績があった団体は2団体である。 撤去の大半は、委託業者と市職員で対応した。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 活動が減少し、年間活動実績がない団体がほとんどとなっているため、存続を検討すべきである。</p>			
<p>行政側 活動が活動の減少状況がみられる近況の中で、いくつかの団体を整理して、新たな協力団体を募集し、協力体制の強化を図り存続していくことも必要である。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅駅周辺景観まちづくり	報告者	都市計画課 景観係
------	--------------	-----	-----------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間：6 / 16、10 / 25、12 / 8、1 / 20（群馬県伊勢崎市視察）、3 / 8 場所：青梅市民会館 ほか</p>
<p>(2) 事業の目的 青梅駅周辺地区景観形成基本計画の目標とする「里山と川に包まれ 歴史が息づき 文化の薫る魅力あるまち」の実現に向けて、調査、研究および地区内住民等の意向調整等を行い、景観まちづくりの推進を図る。</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等） 青梅駅周辺景観形成地区内の市民を中心に、景観形成地区の計画の実施について協働で作業および意見交換が出来た。</p>
<p>(4) 実施内容 青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知活動等、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認等、青梅駅周辺の看板・サインについての街歩き現況調査および講演会の開催等</p>
<p>(5) 事業経費（支出した額または予算額） 景観形成助成金（景観まちづくり市民団体への助成）30,000円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 3.事業協力</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅宿の景観を育む会（会員15人） 参加人数：各回6～9人程度</p>
<p>(3) 協働の理由・きっかけ 「景観形成地区」の指定や「景観形成計画・基準」などを協議していくために地区内の自治会や商店街の代表者で組織した。</p>
<p>(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 3. その他 その他の場合具体的に（ 計画の意思形成過程 ）</p>
<p>(5) 役割分担 市民側：青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、住宅修景に向けて所有者への説明等を行う。 行政側：団体協議の場の提供、懸案事項等を報告、相談。</p>

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	2
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側： おうめ風景通信の発行等による周知や、雪守横丁の整備完了等により改良を実体験できた事、地域役員との協働により大きな住民の関心を高めることができた。			
行政側： 青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知を進めた。また、景観先進地への視察や青梅駅周辺の看板・サインについての街歩き現況調査および講演会を実施し、景観まちづくりへの取組に対して共通認識を深めた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側： 近年は商店主の会員に積極的な関心の高まりが見られ、意見が出てくる等の効果が現われ始めた。一層の推進を期待して行動するが、高齢者が所有する建物が多く、次世代者への積極的な働きかけが必要である。			
行政側： 各町内の会員との連携を深めると同時に、市民団体の主体性をより高めるための体制作りを進めていく必要がある。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	報告者	公園緑地課管理係
------	----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 6月および9月（第1日曜日） 9月台風の影響により中止 場所： 大塚山いこいの森
(2) 事業の目的	みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	年間参加人数 延べ250人 6月のみ実施（参加者 120人）
(4) 実施内容	この土地を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保つため、必要な管理を行うものとする。
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	消耗品費 36,120円 ・ 食糧費 14,400円 ・ 原材料 20,475円 合計 70,995円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： いこいの森を育てる会（近隣5自治会・4小PT4・第8青少対） 参加人数：延べ280人
(3) 協働の理由・きっかけ	地元要望により、針葉樹を伐採し、広葉樹化を行い、管理区分により地元等ボランティアにより清掃、下草刈り等を行っている。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2．実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：管理区分の清掃および下草刈り等（植栽育成に必要なこと） 行政側：全体の施設等管理

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
<p>この土地を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保つことができた。 植栽樹木が根付いて、育ちつつある。また、市立第四小学校の校外学習の場として利用されている。</p>			
行政側			
<p>ボランティアと協働で清掃および下草刈りを行い、市の管理区分（柵外の危険箇所）については、別途草刈りおよび園路階段の補修を一部実施した。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
<p>参加人数の確保 作業道具等の不備 中心となる組織がない</p>			
行政側			
<p>全体の施設（外柵や階段）が木製で腐食のため、修繕が必要となる。 作業用具等が不足していることや、樹木が生長しているため、枝払い鋏や鋸等が必要となる。専門業者等の手入れも必要となる。</p>			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
伐採した切株からの萌芽更新、実生から育った幼木も多数あり、新しい森として再生していること。 管理緑地内の再生を広げていきたい。			
行政側			
萌芽更新、実生からの育成は、これからの新しい森づくりとしての見本としたい。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
会員の高齢化 定員割れ（定員30人）・随時会員の募集			
行政側			
会員の高齢化による出席者減少 会員募集（随時）をかけて、若い世代の参加者を増加を図る。 伐採に際して、多額の予算（搬出・処分費）を必要とすること			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 様々な分野で学校の教育活動を支援することができた。			
行政側 地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	2	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 広報、ホームページ、ちらし、ポスター等により、多くの来場者が集まり盛況であった。</p>			
<p>行政側 実行委員会の参加により、スケジュール調整、準備作業がスムーズに出来た。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 事業実施前後には実行委員会を開催し、打ち合わせおよび反省を行っているが、より詳細な内容での話し合いが必要と思われる。</p>			
<p>行政側 実行委員会の委員が、より積極的にかかわっていきける環境づくりをしていきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	家庭教育講演会	報告者	社会教育課 生涯学習推進係
------	---------	-----	---------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 平成23年 6月18日(土) 中央図書館多目的室 23年11月25日(金) 市役所2階会議室 24年 2月25日(土) 福祉センター
(2) 事業の目的 家庭教育の充実を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 年三回、その時々課題となっているテーマで講演会を実施する。
(4) 実施内容 年間テーマ「もしもの時に備える親子の絆」 第一回：「豊かな家族のコミュニケーションを作るために」/第二回：「アウトドア流子育て防災テクニク」/第三回：「子どもの心をケアする遊び方」
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 3,834円（第一回） 保育業務委託料 5,848円（第二回） 5,654円（第三回）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：NPO法人青梅こども未来 人数：講演会各回10人前後
(3) 協働の理由・きっかけ 子育ての現場の声を反映した講演会とするため。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：保護者への周知、講師等の情報提供、こどもの保育、当日受付・手伝い 行政側：周知、講師交渉、当日運営

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
<ul style="list-style-type: none"> ・内容の企画から協働団体として市民が求めている事柄を提案し実施に至るまで対等な関係で協働出来、市民の声が繁栄された成果は大きい。 			
行政側			
<ul style="list-style-type: none"> ・協働で4年目の実施となり、担当課職員と協働団体代表・担当者による内容の企画・立案から当日の運営までを協議・決定し、講演会当日には多数の団体協力者が受付等の業務を協力してくれた。 ・市としてはソフト面(内容等)で、団体としてはハード面(会場等)でそれぞれ補い合うことができ、双方にメリットがあった。 			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
<ul style="list-style-type: none"> ・開催日程が季節や地域の行事と重なり、参加者が分散してしまったので、設定日や時間帯を考慮する必要がある。 			
行政側			
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、参加者数に課題が残った。参加者増につながる開催日時・内容・周知等を再検討する。 			

協働事業評価シート（表）

事業名称	生涯学習事業（聞き取り調査等は「青梅の森ウォーク&ワーク」）	報告者	社会教育課生涯学習推進係
------	--------------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	青梅の森ウォーク&ワーク 平成23年11月26日 青梅の森/ 農業体験教室 5月～11月 東京都農林水産振興財団青梅庁舎/ 菊作り講習会 5月～8月 新町市民センター/ 生涯学習推進市民会議企画講座 年9回/ いいき健康マージャン入門教室 9月～10月（8回）永山ふれあいセンター
(2) 事業の目的	学習機会提供事業を市民が自主的に企画し、市と協力して開催。 （ウォーク&ワーク）民立おうめ楽校やその他市民団体が、「青梅の森」をフィールドとして活動する団体となり、青梅の森を支えていくグループの一つになることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	団体・企業等が立案した企画を元に、市民の学習ニーズに合わせた講座を実施する。 （ウォーク&ワーク）まずは参加者に「青梅の森」を知ってもらい、ワークショップをとおして自然への理解を深めてもらう。
(4) 実施内容	成人教育 自然観察等をしながら青梅の森を歩く。歩きながら考えたこと、感じたことを参加者同士で共有し、今後自分たちが出来る活動について考える。/ 親子（家庭）教育 農作業や食育の体験活動 / 成人教育 初心者を対象にした福助作り/ 成人教育 料理や手芸、健康法など/ 成人教育 マージャン教室
(5) 事業経費（支出した額または予算額）	と は講師報償金1回6,000円、 と は無料 （ウォーク&ワーク）消耗品費：470円 講師報償金：7,000円

2 協働の内容（「青梅の森ウォーク&ワーク」）

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：民立おうめ楽校 参加人数：9人
(3) 協働の理由・きっかけ	担当職員が該当団体とのネットワークを持っており、協働で行うことにより本事業の目的が達成されやすくなると考えられたため。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担	市民側：ワークショップの運営 行政側：事業全体の運営、広報等

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	2
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	2
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側			
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の持つ意見が直接行政へと伝わる機会が得られた ・協働で行うことにより、行政の積極的な姿勢が市民へと伝わった 			
行政側			
<ul style="list-style-type: none"> ・協働で行うことにより、意識の高い市民（団体）を巻き込んだ事業となった ・単発事業では得にくい継続性が見られた（反省会の実施など） 			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
<ul style="list-style-type: none"> ・市職員が広い視野で市民と積極的に関わり、意識の高い市民団体とピンポイントで協働していく必要がある 			
行政側			
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の持つ感覚やニーズをいち早く捉え、事業等に反映させていかなければならない 			

協働事業評価シート（表）

事業名称	生涯学習事業（親子で文化体験）	報告者	社会教育課 生涯学習推進係
-------------	-----------------	------------	---------------

1 事業の内容

(1)	実施期間および場所	郷土料理 平成23年11月20日（日） 大門市民センター 墨文字アート 平成24年1月7日（土） 長淵市民センター 展示会 平成24年3月15日～18日 中央図書館
(2)	事業の目的	学習機会提供事業を市民が自主的に企画し、市と協力して開催
(3)	事業の成果目標（数値目標等）	団体・企業等が立案した企画を元に、市民の学習ニーズに合わせた講座を実施する。
(4)	実施内容	少年教育 親子で「飯もち」作り 少年教育 親子で墨文字アートの作成 親子で文化体験 各教室の展示
(5)	事業経費（支出した額または予算額）	講師報償金、委託料等 無償

2 協働の内容

(1)	協働の形態	2.事業共催
(2)	協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅こども未来
(3)	協働の理由・きっかけ	団体からの提案、既存の市民団体の活動を拡充
(4)	協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5)	役割分担	市民側：企画、当日の指導 行政側：申し込み受付、事務、会場確保

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場になる体育館の床保護の為に大量のブルーシートや大判の書道用下敷きなど備品準備が大変だが、行政と市民側がそれぞれの備品を持ち寄り、参加者が思う存分書アート出来る場の準備が出来た。 ・参加者の受付人数や準備物連絡等、行政との準備連絡が取り合え書道材料準備がスムーズに出来た。 <p>担当者とメールでの打ち合わせが出来るので活動や会議で外出していることが多い市民側の担当者として非常に助かっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨文字アートは、年を重ねる毎に青梅市内に周知され、年明けの年中行事の1つとして家族で体験し作品発表まで楽しめる事業になっていることは、行政側と協働団体側の良好な連携の成果だと思う。毎年楽しみに展示会を訪れて下さるリピーターの方も増えている。 			
<p>行政側</p> <p>各教室においては事前準備が多い為、早めの対策が必要となったが、団体との連絡を密に行う事でそれほど問題が起きずに進めることが出来た。</p> <p>展示会の際は受付・準備・片づけ等を団体で行えた事でスムーズに開催する事が出来た。また、受付をする事で団体と一般市民とをつなげる場の提供にもなった。</p> <p>今後においても連携を図っていきたい。</p>			

(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）

市民側

- ・ 昨年のように当日参加者があることも想定して新規に2本大筆を購入し書道用具の数を増やしたので、今年は各家族が使用する用具の不足が無かった。
- ・ 今年の展示会の会場係は、スタッフの仕事と展示日程が重なり、会場係り担当出来ない日が多かったので、一緒に展示している他団体からも会場係を出すことを検討したい。
- ・ 野外で使用されたブルーシートが数枚有り、泥や葉っぱを取り除くのに時間がかかった。野外と室内と分けて使用するブルーシートの準備が望まれる。市民側でも来年は予算の中で1枚購入出来るように考えたい。

行政側

教室については全体的な応募数の減少など周知面で課題が残った。周知方法・場所を更に広げる等、対策をを検討したい。
展示に関しては、1団体だけの協力となった為、負担が多くなった。今後は他の教室の団体にも協力依頼したい。

協働事業評価シート（表）

事業名称	文化財解説ボランティア事業	報告者	文化課郷土博物館管理係
------	---------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：通年 場所：郷土博物館、旧吉野家住宅、旧宮崎家住宅、旧稲葉家住宅
(2) 事業の目的 来場(館)者に対し、建物や収蔵品を通し青梅市の歴史を詳しく解説することで、郷土の歴史を深く理解していただくことを目的としている。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 来場(館)の方々に対し、施設の概要および、歴史、文化財保護の啓蒙活動を図る。
(4) 実施内容 毎月指定の土日、休日に文化財ボランティアを各施設に配置し、来場(館)者に対し文化財についての解説を実施している。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 食糧費 5,500円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅市文化財解説ボランティア 参加人数：延べ173人、年間67日稼働(H23実績)
(3) 協働の理由・きっかけ 館内展示品や郷土博物館が管理する文化財の理解をするための一助として従来の説明文では不十分であると感じたため。また職員自体の展示解説による負担を解消するため。
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2.実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：建物に配置し、主に学校等団体来場(館)者に対し解説を行う。 行政側：主に研究者に対し解説などを担当し、併せてボランティアに対する研修を行う。

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		4
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 郷土博物館管轄の文化財の解説行為に自主的にボランティアとして参加しており、市の業務軽減と共にボランティア各自は文化財解説に達成感を持って働いていただいている。</p>			
<p>行政側 解説ボランティアの方々が複数の人数で、見学者を対応してもらえるので、話が広く伝わり啓蒙が図れた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 文化財解説内容の向上及び来館者の興味志向の把握を。</p>			
<p>行政側 現在、フロアトークを毎月1回実施しているが、複数回実施できれば良いと思う。また、解説ボランティアの人数を増やしたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	続・わがまち青梅講座	報告者	文化課郷土博物館管理係
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：5月21日、6月25日、11月12日、3月3日 場所：沢井駅、勝沼城址、金剛寺、花木園他
(2) 事業の目的 私たちが住んでいる青梅の良さ、魅力、歴史、文化財、名所など普及する
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 参加者に対し、青梅市の良さ、魅力、歴史、文化財、名所について理解してもらう。
(4) 実施内容 計4回の講座を実施し、延べ156人の参加者がえられた。
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 講師報償金 80,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅市文化財保護指導員連絡協議会 参加人数：8人
(3) 協働の理由・きっかけ 広報に以前掲載されていた「わがまち青梅」を実際に尋ね歩く
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1.計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：資料準備、解説 行政側：受付等庶務

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 郷土の歴史について、自身も理解を深めることが出来た。			
行政側 参加者も満足される講座であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 目先を変えて新鮮さを出すようにしたい。			
行政側 好評な事業なので引き続き実施していきたい。 リピーターの参加者が多いので幅広い年齢層から参加を募りたい。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計 画 段 階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実 施 段 階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事 業 終 了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 なし			
行政側 懐古的テーマに沿った展示や、東日本大震災に関連する講座など、時代を捉えた講座を実施した結果、多数の参加者にお越しいただけた。専門性も問われるため協働により題材を深く掘り下げることが出来たことは、効果大であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 なし			
行政側 今後も、世相を反映させる企画を考え、郷土に興味を持っていただける「入口」としての講座を実施していきたい。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 竹細工工芸について参加者の理解を深めることが出来た。			
行政側 参加者に技術を正確に伝え、ものづくりを通じて郷土理解を深めていただく点で協働による効果が発揮できたと思う。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 なし			
行政側 今後も、他課も含め評判の高い講座を角度を変えてスポット的に実施できるよう計画をしたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	おはなしボランティア	報告者	中央図書館管理課 業務係
------	------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成23年4月7日～平成24年3月24日 場所：中央図書館、今井図書館ほか
(2) 事業の目的 市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上
(4) 実施内容 おはなし学習会 4回、絵本のべんきょう会 6回 おはなし勉強会 9回
(5) 事業経費（支出した額または予算額） 24,000円（おはなし学習会講師報償金 6,000円×4回）

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：「青梅おはなしの会」、おはなしの会 ころりん」他個人登録ボランティア 参加人数：延べ150人
(3) 協働の理由・きっかけ 図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアへの働く場所の提供
(4) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2．実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(5) 役割分担 市民側：おはなし会、おはなし学習会、おはなし勉強会への参加、実演 行政側：おはなし会、おはなし学習会、おはなし勉強会の開催

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側			
図書館の仕事や、地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動の場所が確保できた。			
行政側			
市民のボランティア活動に対して意識が向上し、子ども読書活動の推進が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側			
この活動は、図書館事業（子ども読書活動推進事業）でもある。 このため、今後も市民と行政の役割をしっかりと築き、参加者にとって良い事業であるようにしていきたい。			

協働事業評価シート（裏）

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
図書館の仕事に携われることにより、働くことへの喜びが感じられる。			
行政側			
ボランティアの整架により、書架が常に整理された状態になり、利用者から喜ばれている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
図書館職員との交流 職員が多く、顔と名前が一致しないため相談などがあっても一部の職員にしかできない。			
行政側			
できるだけ多くの職員がボランティアとの交流を持ち、事業が円滑に進むよう改善する。			